

生駒市 在宅医療・介護連携に関する調査
報告書

目次

I 調査概要.....	1
II 医療機関向け調査.....	4
III 介護サービス事業者向けアンケート ①介護サービス事業者.....	23
IV 介護サービス事業者向けアンケート ②居宅介護支援事業所等.....	36
V 介護サービス事業所従事者向けアンケート.....	51

本調査報告書は、「生駒市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」(以下、計画)策定時に、平成 30 年、令和 2 年、令和 5 年に医療・介護事業所を対象に実施したアンケート調査の経年変化をまとめたものです。

I 調査概要

■調査目的

在宅医療・介護連携の推進にあたり、課題・問題や今後の取組の方向性を検討するため、実態や意識の変化を分析しました。

■分析対象

計画策定時に実施した医療機関向け調査結果、介護サービス事業者向けアンケート結果を対象としました。

平成 30 年度調査	医療機関向け調査
令和 2 年度調査	医療機関向け調査、介護サービス事業者向けアンケート 介護サービス事業所従事者向けアンケート
令和 5 年度調査	医療機関向け調査、介護サービス事業者向けアンケート、 介護サービス事業所従事者向けアンケート

※平成 30 年度調査は、共通する 3 つの設問のみが対象

■調査の実施概要(令和 5 年度)

医療機関向け調査

調査対象者	市内医療機関 95 機関
調査方法	郵送
回収結果(回収率)	88 機関(92.6%)

介護サービス事業者向けアンケート／介護サービス事業所従事者向けアンケート

調査対象者	市内事業所 計 157 事業所 居宅介護支援事業所 27 事業所 地域包括支援センター 7 センター 介護サービス事業所 123 事業所 事業所従事者 計 2,344 人 居宅介護支援事業所・地域包括支援センター 従事者 136 人 介護サービス事業所 従事者 2,208 人
調査方法	郵送
回収結果 (回収率)	市内事業所 居宅介護支援事業所 23 事業所(85.2%) 地域包括支援センター 7 センター(100%) 介護サービス事業所 108 事業所(87.8%) 事業所従事者 居宅介護支援事業所・地域包括支援センター 従事者 116 人(85.3%) 介護サービス事業所 従事者 1,237 人(56.0%)

■分析方法

3 か年(もしくは 2 か年)の調査結果に統計処理(独立性の検定)を行い、回答割合に有意差があるか確認しました。有意差があれば、経年変化があったと解釈します。

■データの見方

- 表は順位表として示している。回答割合のその他を除く上位3位まで色を付しています。色が濃いほど、回答割合は高くなります。
- 選択肢が8つ以上のものは、見やすくするため、グラフで示しています。
- 回答割合は行(横)を合計すると100%になりますが、端数処理のため100%にならない場合があります。

■分析結果

統計処理の結果、回答割合の有意差があった設問は以下の通りです。

経年変化のあった設問一覧

Ⅱ 医療機関向け調査

頁	項番	設問内容
P.8	1. 6)	今後、在宅医療・在宅ケアを促進するために、どのような取り組みが重要だと考えていますか。
P.10	2. 3)	在宅療養や在宅看取りを促進するために必要な要因は何と考えていますか。
P.17	4. 3)⑨【連携状況】	貴院が関わる高齢者の情報について、次にあげる関係機関、職種との連携はどの程度重要と考えていますか。また、現在の連携はどのような状況ですか。
P.17 ~18	4. 3)⑩【連携状況】【重要度】	
P.18	4. 3)⑪【重要度】	
P.20	4. 3)⑫【重要度】	

Ⅲ 介護サービス事業者向けアンケート ①介護サービス事業者

頁	項番	設問内容
P.23	1.	事業所職員に受講させたいと思う研修についてお答えください。
P.24	2.	現在、事業所が運営しているサービス(あて名に記載のサービス)に限らず、今後、市内で充実(量的充実)が必要と思われるサービスについてお答えください。
P.25	3. ②	サービス利用者の情報についての連携状況
P.26	3. ④	
P.26	3. ⑤	
P.27	3. ⑩	
P.27	3. ⑪	
P.28	3. ⑬	
P.31	5. ⑥	医療ニーズの高い利用者に対する支援
P.34	5. ⑰	
P.35	6. 3)	(利用者の看取りを)現在行っていない理由や行う上での課題となっていることをお答えください。

IV 介護サービス事業者向けアンケート ②居宅介護支援事業所等

頁	項番	設問内容
P.37	3.	地域包括支援センターの役割として望んでいることは何ですか。
P.38	4.	行政機関の役割として望んでいることは何ですか。
P.39	5. ④	サービス利用者の情報についての連携状況
P.44	8. ②	医療ニーズの高い利用者に対する支援
P.44	8. ④	
P.45	8. ⑤	
P.45	8. ⑥	
P.48	8. ⑱	

V 介護サービス事業所従事者向けアンケート

※「独立性の検定」の処理対象なし

Ⅱ 医療機関向け調査

1. 訪問診療や往診などの在宅医療について

1) 在宅医療の実施の有無

	合計	行っている	行っていない	不明・無回答
平成 30 年度調査	n=35	40.0%	60.0%	0.0%
令和 2 年度調査	n=83	41.0%	59.0%	0.0%
令和 5 年度調査	n=88	40.9%	58.0%	1.1%

在宅医療の実施有無をみると、平成30年度調査では、「行っていない」が60.0%、「行っている」が40.0%となっています。

令和2年度調査では、「行っていない」が59.0%、「行っている」が41.0%となっています。

令和5年度調査では、「行っていない」が58.0%、「行っている」が40.9%となっています。

2) 在宅医療を行っている医療機関の訪問診療・往診の実施状況

① 訪問診療 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和 2 年度調査	n=34	41.2%	58.8%	0.0%
令和 5 年度調査	n=36	16.7%	63.9%	19.4%

訪問診療の年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「1人以上」が58.8%、「0人」が41.2%となっています。平均は22.3人となっています。

令和5年度調査では、「1人以上」が63.9%、「0人」が16.7%となっています。平均は37.2人となっています。

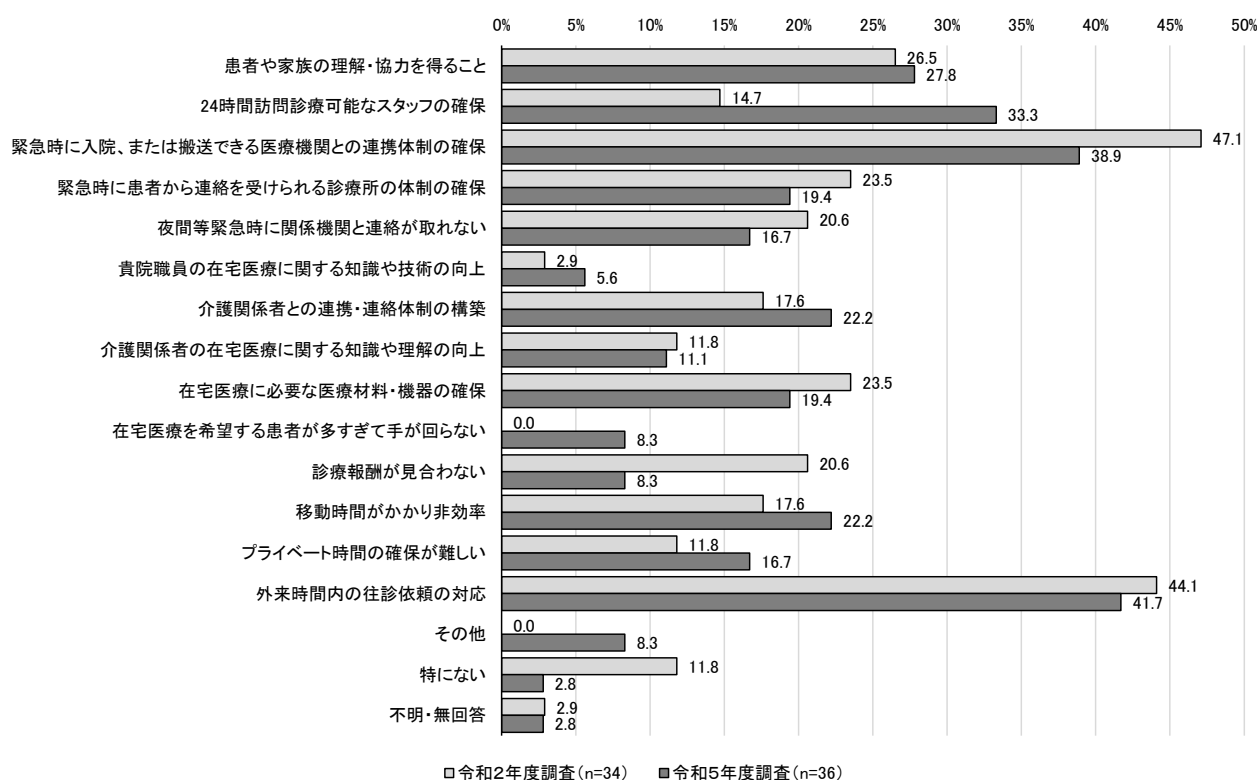
②往診 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和 2 年度調査	n=34	11.8%	88.2%	0.0%
令和 5 年度調査	n=36	11.1%	69.4%	19.4%

往診の年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「1人以上」が88.2%、「0人」が11.8%となっています。平均は21.1人となっています。

令和5年度調査では、「1人以上」が69.4%、「0人」が11.1%となっています。平均は17.9人となっています。

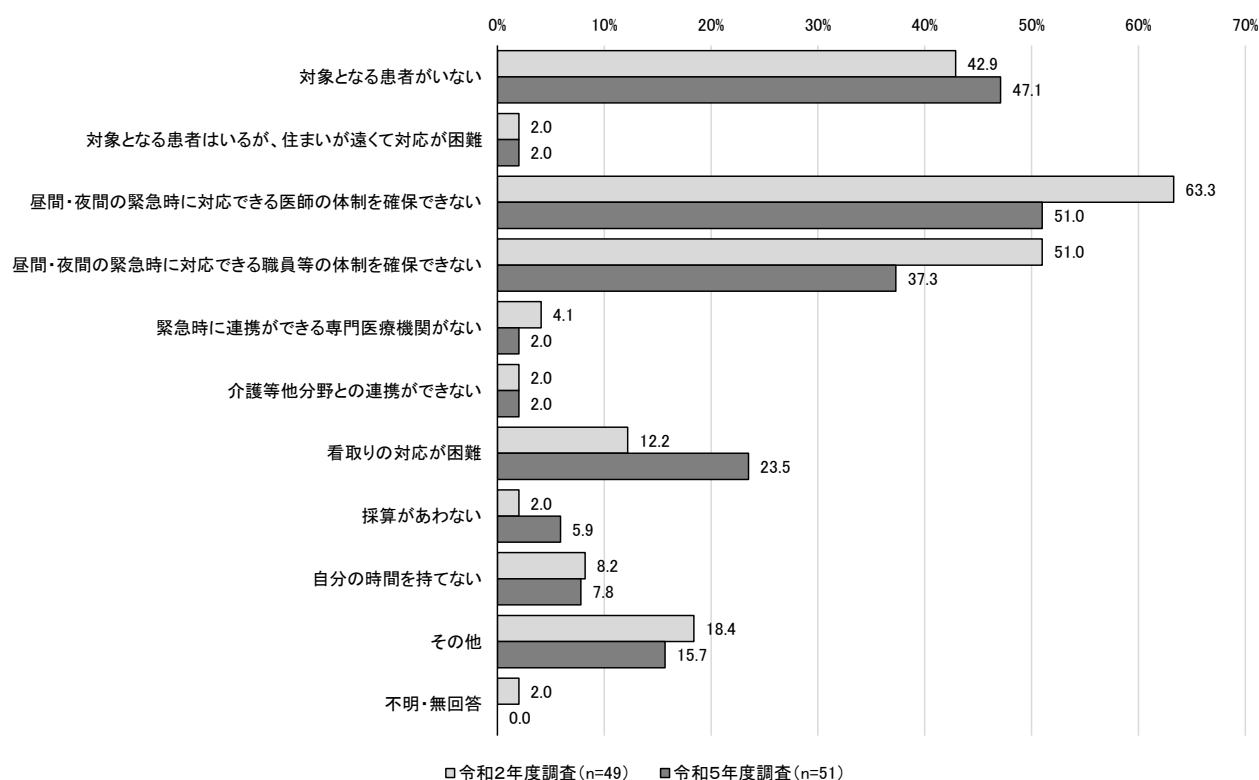
3)【実施医療機関】在宅医療を行う上での困難（主なものを5つまで選択）



在宅医療を実施する上での困難をみると、令和2年度調査では、「緊急時に入院、または搬送できる医療機関との連携体制の確保」が47.1%で最も多く、次いで「外来時間内の往診依頼の対応」が44.1%、「患者や家族の理解・協力を得ること」が26.5%で続いています。

令和5年度調査では、「外来時間内の往診依頼の対応」が41.7%で最も多く、次いで「緊急時に入院、または搬送できる医療機関との連携体制の確保」が38.9%、「24時間訪問診療可能なスタッフの確保」が33.3%で続いています。

4) 【未実施医療機関】在宅医療を行っていない理由（主なものを3つまで選択）



在宅医療を実施していない理由をみると、令和2年度調査では、「昼間・夜間の緊急時に対応できる医師の体制を確保できない」が 63.3%で最も多く、次いで「昼間・夜間の緊急時に対応できる職員等の体制を確保できない」が 51.0%、「対象となる患者がいない」が 42.9%で続いています。

令和5年度調査では、「昼間・夜間の緊急時に対応できる医師の体制を確保できない」が 51.0%で最も多く、次いで「対象となる患者がいない」が 47.1%、「昼間・夜間の緊急時に対応できる職員等の体制を確保できない」が 37.3%で続いています。

5) 今後の在宅医療の実施意向

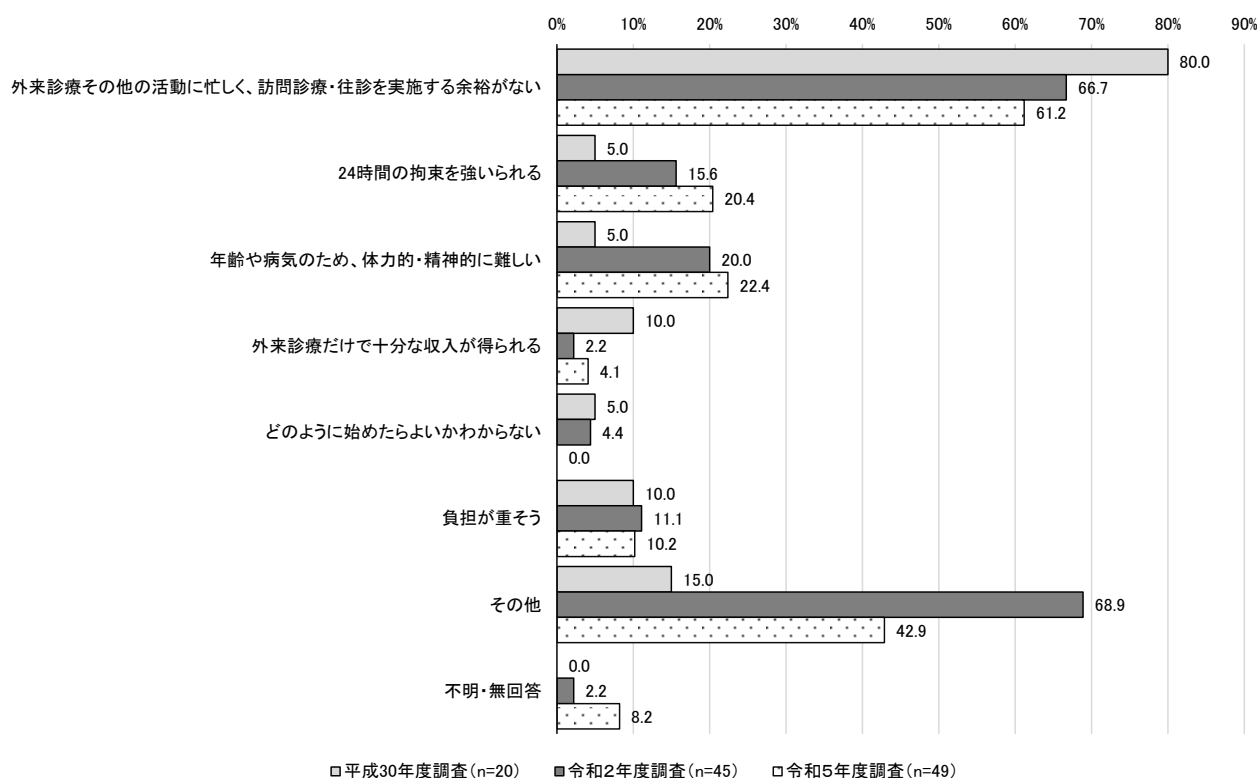
	合計	引き続き実施するが、現状維持	引き続き実施し、強化していく	実施していないが、 今後は実施を検討する	今後も実施する 予定はない	不明・無回答
平成30年度調査	n=35	28.6%	5.7%	14.3%	42.9%	8.6%
令和2年度調査	n=83	32.5%	4.8%	8.4%	45.8%	8.4%
令和5年度調査	n=88	28.4%	5.7%	4.5%	51.1%	10.2%

今後の在宅医療の実施意向をみると、平成30年度調査では、「今後も実施する予定はない」が 42.9%で最も多く、次いで「引き続き実施するが、現状維持」が 28.6%、「実施していないが、今後は実施を検討する」が 14.3%で続いています。

令和2年度調査では、「今後も実施する予定はない」が 45.8%で最も多く、次いで「引き続き実施するが、現状維持」が 32.5%、「実施していないが、今後は実施を検討する」が 8.4%で続いています。

令和5年度調査では、「今後も実施する予定はない」が 51.1%で最も多く、次いで「引き続き実施するが、現状維持」が 28.4%、「引き続き実施し、強化していく」が 5.7%で続いています。

5) - 1 【今後も実施予定のない医療機関】在宅医療を行う予定や意思がない理由（主なものを3つまで選択）



注)本設問は、令和2年度調査及び令和5年度調査にあり、平成30年度調査にはない選択肢(「十分な職員体制を確保できない」)がある。経年比較にあたって、令和2年度調査及び令和5年度調査では、「十分な職員体制を確保できない」の回答を「その他」に統合して処理した。

統合する前の「十分な職員体制を確保できない」の各年の回答割合は以下の通り。

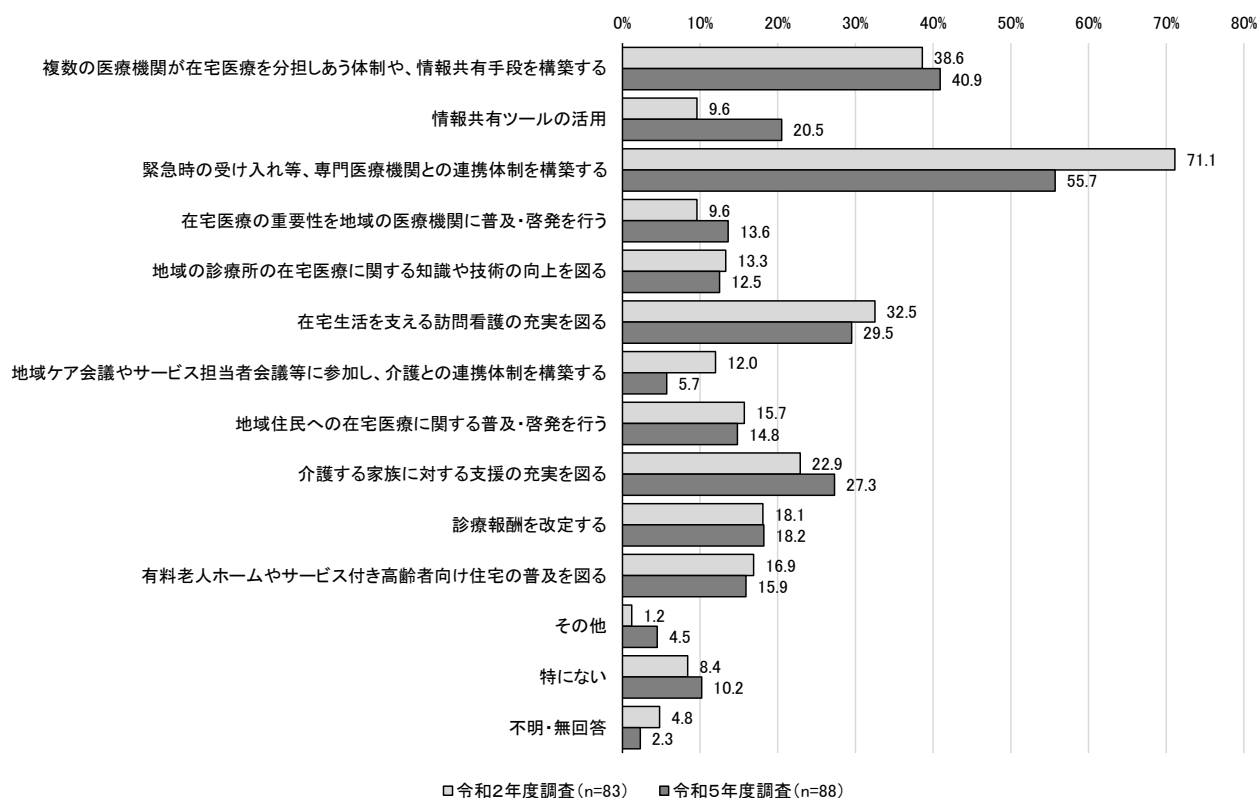
令和2年度調査 55.6% 令和5年度調査 32.7%

今後も在宅医療の実施予定のない医療機関について、予定や意思がない理由をみると、平成30年度調査では、「外来診療その他の活動に忙しく、訪問診療・往診を実施する余裕がない」が 80.0%で最も多く、次いで「その他」が 15.0%、「外来診療だけで十分な収入が得られる」と「負担が重そう」が、ともに 10.0%で続いています。

令和2年度調査では、「その他」が 68.9%で最も多く、次いで「外来診療その他の活動に忙しく、訪問診療・往診を実施する余裕がない」が 66.7%、「年齢や病気のため、体力的・精神的に難しい」が 20.0%で続いています。

令和5年度調査では、「外来診療その他の活動に忙しく、訪問診療・往診を実施する余裕がない」が 61.2%で最も多く、次いで「その他」が 42.9%、「年齢や病気のため、体力的・精神的に難しい」が 22.4%で続いています。

6) 今後、在宅医療・在宅ケアを促進するため重要な取り組み（主なものを5つまで選択）



今後、在宅医療・在宅ケアを促進するために重要な取り組みをみると、令和2年度調査では、「緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する」が 71.1%で最も多く、次いで「複数の医療機関が在宅医療を分担しあう体制や、情報共有手段を構築する」が 38.6%、「在宅生活を支える訪問看護の充実を図る」が 32.5%で続いています。

令和5年度調査では、「緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する」が 55.7%で最も多く、次いで「複数の医療機関が在宅医療を分担しあう体制や、情報共有手段を構築する」が 40.9%、「在宅生活を支える訪問看護の充実を図る」が 29.5%で続いています。

「緊急時の受け入れ等、専門医療機関との連携体制を構築する」について、令和2年(71.1%)から令和5年(55.7%)まで減少しています。

2. 在宅での療養や看取りについて

1) 在宅看取りの実施有無

	合計	行っている	行っていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	24.1%	71.1%	4.8%
令和5年度調査	n=88	25.0%	72.7%	2.3%

在宅看取りの実施有無をみると、令和2年度調査では、「行っていない」が 71.1%、「行っている」が 24.1%となっています。

令和5年度調査では、「行っていない」が 72.7%、「行っている」が 25.0%となっています。

2) 看取りの実施状況

①自宅での看取り患者数 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和2年度調査	n=20	25.0%	75.0%	0.0%
令和5年度調査	n=22	18.2%	72.7%	9.1%

自宅で看取りを行った年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「1人以上」が75.0%、「0人」が25.0%となっています。平均は3.0人となっています。

令和5年度調査では、「1人以上」が72.7%、「0人」が18.2%となっています。平均は4.9人となっています。

①-1 自宅での看取りのうち、がん患者数 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和2年度調査	n=20	55.0%	45.0%	0.0%
令和5年度調査	n=22	18.2%	45.5%	36.4%

自宅で看取りを行った患者のうち、がん患者の年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「0人」が55.0%、「1人以上」が45.0%となっています。平均は1.0人となっています。

令和5年度調査では、「1人以上」が45.5%、「0人」が18.2%となっています。平均は2.4人となっています。

②高齢者向け住宅での看取り患者数 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和2年度調査	n=20	50.0%	50.0%	0.0%
令和5年度調査	n=22	36.4%	45.5%	18.2%

高齢者向け住宅で看取りを行った年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「0人」と「1人以上」が、ともに50.0%となっています。平均は2.0人となっています。

令和5年度調査では、「1人以上」が45.5%、「0人」が36.4%となっています。平均は2.8人となっています。

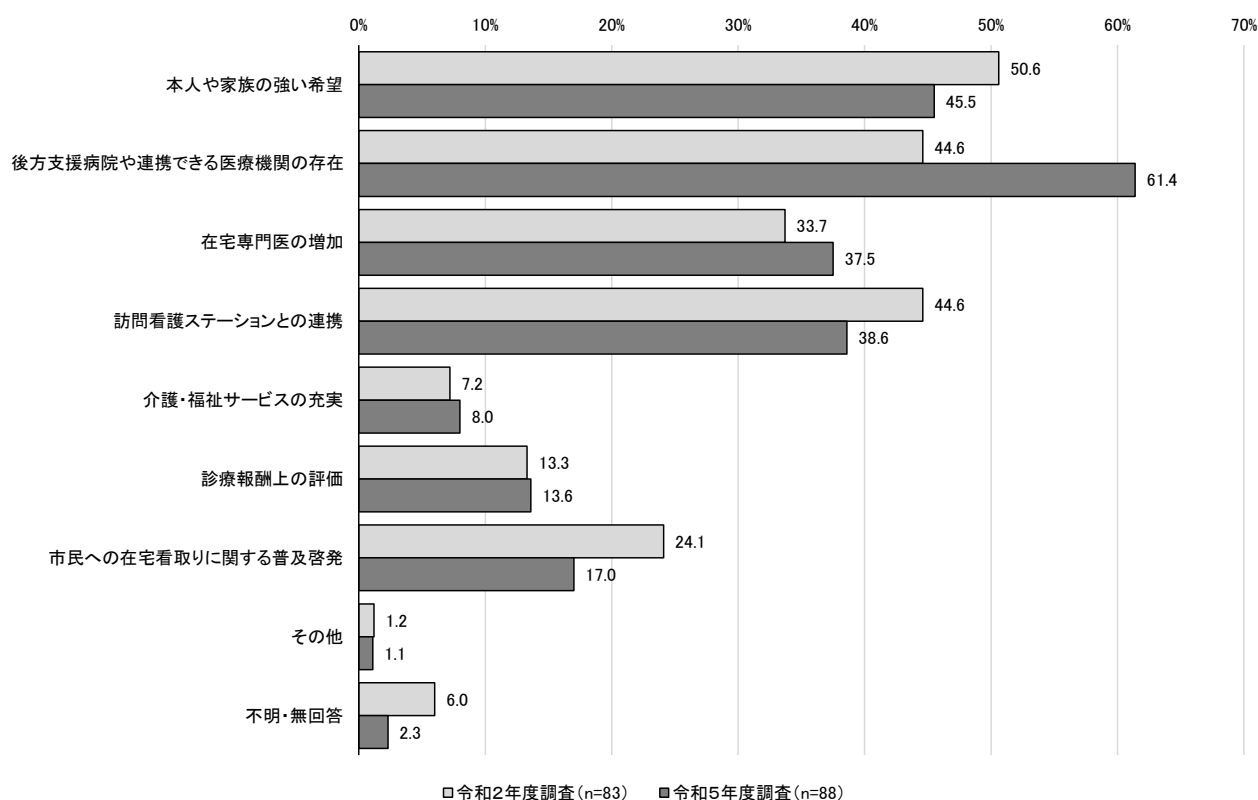
②-1 高齢者向け住宅での看取りのうち、がん患者数 前年度の患者数（実人数）

	合計	0人	1人以上	不明・無回答
令和2年度調査	n=20	90.0%	10.0%	0.0%
令和5年度調査	n=22	27.3%	18.2%	54.5%

高齢者向け住宅で看取りを行った患者のうち、がん患者の年間患者数(実人数)をみると、令和2年度調査では、「0人」が90.0%、「1人以上」が10.0%となっています。平均は0.8人となっています。

令和5年度調査では、「0人」が27.3%、「1人以上」が18.2%となっています。平均は0.6人となっています。

3) 在宅療養や在宅看取りを促進するために必要な要因（主なもの3つまで選択）



在宅療養や在宅看取りを促進するために必要な要因をみると、令和2年度調査では、「本人や家族の強い希望」が50.6%で最も多く、次いで「後方支援病院や連携できる医療機関の存在」と「訪問看護ステーションとの連携」が、ともに44.6%、「在宅専門医の増加」が33.7%で続いています。

令和5年度調査では、「後方支援病院や連携できる医療機関の存在」が61.4%で最も多く、次いで「本人や家族の強い希望」が45.5%、「訪問看護ステーションとの連携」が38.6%で続いています。

「後方支援病院や連携できる医療機関の存在」について、令和2年(44.6%)から令和5年(61.4%)まで増加しています。

3. 認知症に関する診断・治療について

1) 認知症に関する診断・治療の実施状況

	合計	診断・治療ともに 行っている	診断は 行っている	治療は 行っている	いずれも 行っていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	22.9%	4.8%	20.5%	47.0%	4.8%
令和5年度調査	n=88	21.6%	4.5%	25.0%	48.9%	0.0%

認知症に関する診断・治療の実施状況をみると、令和2年度調査では、「いずれも行っていない」が47.0%で最も多く、次いで「診断・治療ともに行っている」が22.9%、「治療は行っている」が20.5%で続いています。

令和5年度調査では、「いずれも行っていない」が48.9%で最も多く、次いで「治療は行っている」が25.0%、「診断・治療ともに行っている」が21.6%で続いています。

2) かかりつけ医認知症対応力向上研修の受講状況

	合計	ある	ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	20.5%	74.7%	4.8%
令和5年度調査	n=88	12.5%	86.4%	1.1%

かかりつけ医認知症対応力向上研修の受講者の有無をみると、令和2年度調査では、「ない」が 74.7%、「ある」が 20.5%となっています。

令和5年度調査では、「ない」が 86.4%、「ある」が 12.5%となっています。

①受講済み医師の人数

	合計	1人	2人	不明・無回答
令和2年度調査	n=17	82.4%	11.8%	5.9%
令和5年度調査	n=11	81.8%	18.2%	0.0%

受講した医師の人数をみると、令和2年度調査では、「1人」が 82.4%、「2人」が 11.8%となっています。平均は 1.1 人となっています。

令和5年度調査では、「1人」が 81.8%、「2人」が 18.2%となっています。平均は 1.2 人となっています。

3) 「認知症療養指導料」の算定有無

	合計	ある	ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	2.4%	94.0%	3.6%
令和5年度調査	n=88	0.0%	100.0%	0.0%

「認知症療養指導料」の算定有無をみると、令和2年度調査では、「ない」が 94.0%、「ある」が 2.4%となっています。

令和5年度調査では、「ない」が 100.0%となっています。

4. 医療機関と関係機関、職種との連携について

1) 医療関係者と介護従事者等が連携を進める上での課題

	合計	具体的な連携方法が分からない	異職種間での意思疎通が難しい	連携するためのツール（ICTを活用したシステム等）がない	所属している組織の理解が得られない	その他	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	41.0%	30.1%	14.5%	0.0%	7.2%	7.2%
令和5年度調査	n=88	33.0%	31.8%	19.3%	1.1%	8.0%	6.8%

医療関係者と介護従事者などが連携を進める上での課題をみると、令和2年度調査では、「具体的な連携方法が分からない」が 41.0%で最も多く、次いで「異職種間での意思疎通が難しい」が 30.1%、「連携するためのツール（ICTを活用したシステム等）がない」が 14.5%で続いています。

令和5年度調査では、「具体的な連携方法が分からない」が 33.0%で最も多く、次いで「異職種間での意思疎通が難しい」が 31.8%、「連携するためのツール（ICTを活用したシステム等）がない」が 19.3%で続いています。

2)「地域包括ケアシステム」の認知状況について

	合計	知っており、 構築に向けて できることは 協力したい	知っている	言葉は 聞いたことはあるが 詳しくはわからない	知らない ・ 聞いたことがない	その他	不明 ・ 無回答
令和2年度調査	n=83	18.1%	30.1%	45.8%	3.6%	0.0%	2.4%
令和5年度調査	n=88	22.7%	23.9%	44.3%	6.8%	0.0%	2.3%

「地域包括ケアシステム」の認知状況をみると、令和2年度調査では、「言葉は聞いたことはあるが詳しくはわからない」が45.8%で最も多く、次いで「知っている」が30.1%、「知っており、構築に向けてできることは協力したい」が18.1%で続いています。

令和5年度調査では、「言葉は聞いたことはあるが詳しくはわからない」が44.3%で最も多く、次いで「知っている」が23.9%、「知っており、構築に向けてできることは協力したい」が22.7%で続いています。

3) 高齢者の情報についての関係機関、職種との連携状況および重要度について

連携状況

①他の医療機関

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	13.3%	55.4%	12.0%	8.4%	10.8%
令和5年度調査	n=88	20.5%	38.6%	15.9%	8.0%	17.0%

他の医療機関との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が 55.4%で最も多く、次いで「よくとれている」が 13.3%、「あまりとれていない」が 12.0%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が 38.6%で最も多く、次いで「よくとれている」が 20.5%、「あまりとれていない」が 15.9%で続いています。

②歯科医師

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	7.2%	12.0%	36.1%	32.5%	12.0%
令和5年度調査	n=88	3.4%	20.5%	27.3%	30.7%	18.2%

歯科医師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が 36.1%で最も多く、次いで「ほとんどとれていない」が 32.5%、「ある程度とれている」が 12.0%で続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が 30.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が 27.3%、「ある程度とれている」が 20.5%で続いています。

③薬剤師

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	21.7%	34.9%	15.7%	15.7%	12.0%
令和5年度調査	n=88	22.7%	31.8%	14.8%	12.5%	18.2%

薬剤師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が 34.9%で最も多く、次いで「よくとれている」が 21.7%、「あまりとれていない」と「ほとんどとれていない」が、ともに 15.7%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が 31.8%で最も多く、次いで「よくとれている」が 22.7%、「あまりとれていない」が 14.8%で続いています。

④訪問看護師

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	21.7%	26.5%	21.7%	16.9%	13.3%
令和5年度調査	n=88	21.6%	29.5%	15.9%	13.6%	19.3%

訪問看護師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が 26.5%で最も多く、次いで「よくとれている」と「あまりとれていない」が、ともに 21.7%、「ほとんどとれていない」が 16.9%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が 29.5%で最も多く、次いで「よくとれている」が 21.6%、「あまりとれていない」が 15.9%で続いています。

重要度

①他の医療機関

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	62.7%	26.5%	2.4%	0.0%	8.4%
令和5年度調査	n=88	63.6%	25.0%	4.5%	1.1%	5.7%

他の医療機関との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が 62.7%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 26.5%、「どちらかといえば重要ではない」が 2.4%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が 63.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 25.0%、「どちらかといえば重要ではない」が 4.5%が続いています。

②歯科医師

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	27.7%	41.0%	16.9%	4.8%	9.6%
令和5年度調査	n=88	31.8%	34.1%	15.9%	11.4%	6.8%

歯科医師との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要である」が 41.0%で最も多く、次いで「重要である」が 27.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 16.9%が続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が 34.1%で最も多く、次いで「重要である」が 31.8%、「どちらかといえば重要ではない」が 15.9%が続いています。

③薬剤師

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	50.6%	31.3%	6.0%	2.4%	9.6%
令和5年度調査	n=88	46.6%	35.2%	8.0%	3.4%	6.8%

薬剤師との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が 50.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 31.3%、「どちらかといえば重要ではない」が 6.0%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が 46.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 35.2%、「どちらかといえば重要ではない」が 8.0%が続いています。

④訪問看護師

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	60.2%	21.7%	4.8%	3.6%	9.6%
令和5年度調査	n=88	61.4%	21.6%	5.7%	3.4%	8.0%

訪問看護師との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が 60.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 21.7%、「どちらかといえば重要ではない」が 4.8%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が 61.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が 21.6%、「どちらかといえば重要ではない」が 5.7%が続いています。

連携状況

⑤理学療法士等のリハビリ職

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	7.2%	16.9%	25.3%	37.3%	13.3%
令和5年度調査	n=88	6.8%	23.9%	19.3%	29.5%	20.5%

理学療法士等のリハビリ職との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ほとんどとれていない」が37.3%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が25.3%、「ある程度とれている」が16.9%が続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が29.5%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が23.9%、「あまりとれていない」が19.3%が続いています。

⑥医療ソーシャルワーカー

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	10.8%	20.5%	26.5%	28.9%	13.3%
令和5年度調査	n=88	6.8%	19.3%	25.0%	29.5%	19.3%

医療ソーシャルワーカーとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「ほとんどとれていない」が28.9%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が26.5%、「ある程度とれている」が20.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が29.5%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が25.0%、「ある程度とれている」が19.3%が続いています。

⑦地域包括支援センター

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	12.0%	28.9%	27.7%	19.3%	12.0%
令和5年度調査	n=88	12.5%	25.0%	18.2%	25.0%	19.3%

地域包括支援センターとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が28.9%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が27.7%、「ほとんどとれていない」が19.3%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」と「ほとんどとれていない」が、ともに25.0%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が18.2%、「よくとれている」が12.5%が続いています。

⑧居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	8.4%	30.1%	27.7%	20.5%	13.3%
令和5年度調査	n=88	15.9%	30.7%	18.2%	17.0%	18.2%

居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が30.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が27.7%、「ほとんどとれていない」が20.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が30.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が18.2%、「ほとんどとれていない」が17.0%が続いています。

重要度

⑤理学療法士等のリハビリ職

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	27.7%	34.9%	19.3%	7.2%	10.8%
令和5年度調査	n=88	34.1%	35.2%	13.6%	8.0%	9.1%

理学療法士等のリハビリ職との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要である」が34.9%で最も多く、次いで「重要である」が27.7%、「どちらかといえば重要ではない」が19.3%が続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が35.2%で最も多く、次いで「重要である」が34.1%、「どちらかといえば重要ではない」が13.6%が続いています。

⑥医療ソーシャルワーカー

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	41.0%	26.5%	16.9%	3.6%	12.0%
令和5年度調査	n=88	39.8%	33.0%	10.2%	9.1%	8.0%

医療ソーシャルワーカーとの連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が41.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が26.5%、「どちらかといえば重要ではない」が16.9%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が39.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が33.0%、「どちらかといえば重要ではない」が10.2%が続いています。

⑦地域包括支援センター

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	45.8%	27.7%	14.5%	3.6%	8.4%
令和5年度調査	n=88	42.0%	29.5%	9.1%	9.1%	10.2%

地域包括支援センターとの連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が45.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が27.7%、「どちらかといえば重要ではない」が14.5%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が42.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が29.5%、「どちらかといえば重要ではない」と「重要ではない」が、ともに9.1%が続いています。

⑧居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	39.8%	31.3%	14.5%	3.6%	10.8%
令和5年度調査	n=88	54.5%	26.1%	5.7%	6.8%	6.8%

居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が39.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が31.3%、「どちらかといえば重要ではない」が14.5%が続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が54.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が26.1%、「重要ではない」が6.8%が続いています。

連携状況

⑨介護保険サービス事業者

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	6.0%	24.1%	34.9%	20.5%	14.5%
令和5年度調査	n=88	6.8%	29.5%	15.9%	27.3%	20.5%

介護保険サービス事業者との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が34.9%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が24.1%、「ほとんどとれていない」が20.5%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が29.5%で最も多く、次いで「ほとんどとれていない」が27.3%、「あまりとれていない」が15.9%で続いています。

「あまりとれていない」について、令和2年(34.9%)から令和5年(15.9%)まで減少しています。

⑩市役所（介護保険課、障がい福祉課等）

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	4.8%	13.3%	36.1%	31.3%	14.5%
令和5年度調査	n=88	2.3%	29.5%	23.9%	23.9%	20.5%

市役所(介護保険課、障がい福祉課等)との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が36.1%で最も多く、次いで「ほとんどとれていない」が31.3%、「ある程度とれている」が13.3%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が29.5%で最も多く、次いで「あまりとれていない」と「ほとんどとれていない」が、ともに23.9%、「よくとれている」が2.3%で続いています。

「ある程度とれている」について、令和2年(13.3%)から令和5年(29.5%)まで増加しています。

⑪自治会関係者、民生委員

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	3.6%	6.0%	26.5%	50.6%	13.3%
令和5年度調査	n=88	1.1%	5.7%	27.3%	45.5%	20.5%

自治会関係者や民生委員との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ほとんどとれていない」が50.6%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が26.5%、「ある程度とれている」が6.0%で続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が45.5%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が27.3%、「ある程度とれている」が5.7%で続いています。

重要度

⑨介護保険サービス事業者

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	38.6%	27.7%	20.5%	2.4%	10.8%
令和5年度調査	n=88	33.0%	39.8%	11.4%	6.8%	9.1%

介護保険サービス事業者との連携の重要性をみると、令和2年度調査では、「重要である」が38.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が27.7%、「どちらかといえば重要ではない」が20.5%で続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が39.8%で最も多く、次いで「重要である」が33.0%、「どちらかといえば重要ではない」が11.4%で続いています。

⑩市役所（介護保険課、障がい福祉課等）

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	28.9%	36.1%	22.9%	2.4%	9.6%
令和5年度調査	n=88	37.5%	42.0%	3.4%	8.0%	9.1%

市役所（介護保険課、障がい福祉課等）との連携の重要性をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要である」が36.1%で最も多く、次いで「重要である」が28.9%、「どちらかといえば重要ではない」が22.9%で続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が42.0%で最も多く、次いで「重要である」が37.5%、「重要ではない」が8.0%で続いています。

「どちらかといえば重要ではない」について、令和2年(22.9%)から令和5年(3.4%)まで減少しています。

⑪自治会関係者、民生委員

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	19.3%	26.5%	36.1%	6.0%	12.0%
令和5年度調査	n=88	17.0%	42.0%	21.6%	11.4%	8.0%

自治会関係者や民生委員との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要ではない」が36.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が26.5%、「重要である」が19.3%で続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が42.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要ではない」が21.6%、「重要である」が17.0%で続いています。

「どちらかといえば重要である」について、令和2年(26.5%)から令和5年(42.0%)まで増加しています。また、「どちらかといえば重要ではない」について、令和2年(36.1%)から令和5年(21.6%)まで減少しています。

連携状況

⑫社会福祉協議会

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	4.8%	9.6%	25.3%	47.0%	13.3%
令和5年度調査	n=88	2.3%	9.1%	26.1%	40.9%	21.6%

社会福祉協議会との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ほとんどとれていない」が47.0%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が25.3%、「ある程度とれている」が9.6%で続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が40.9%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が26.1%、「ある程度とれている」が9.1%で続いています。

⑬患者家族

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	34.9%	36.1%	7.2%	10.8%	10.8%
令和5年度調査	n=88	33.0%	26.1%	12.5%	9.1%	19.3%

患者家族との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が36.1%で最も多く、次いで「よくとれている」が34.9%、「ほとんどとれていない」が10.8%で続いています。

令和5年度調査では、「よくとれている」が33.0%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が26.1%、「あまりとれていない」が12.5%で続いています。

⑭ボランティア、NPOなど

	合計	よく とれている	ある程度 とれている	あまり とれていない	ほとんど とれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	1.2%	4.8%	21.7%	60.2%	12.0%
令和5年度調査	n=88	1.1%	1.1%	23.9%	53.4%	20.5%

ボランティアやNPOとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「ほとんどとれていない」が60.2%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が21.7%、「ある程度とれている」が4.8%で続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が53.4%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が23.9%、「よくとれている」と「ある程度とれている」が、ともに1.1%で続いています。

重要度

⑫社会福祉協議会

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	22.9%	25.3%	32.5%	8.4%	10.8%
令和5年度調査	n=88	14.8%	42.0%	19.3%	13.6%	10.2%

社会福祉協議会との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要ではない」が32.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が25.3%、「重要である」が22.9%で続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が42.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要ではない」が19.3%、「重要である」が14.8%で続いています。

「どちらかといえば重要である」について、令和2年(25.3%)から令和5年(42.0%)まで増加しています。また、「どちらかといえば重要ではない」について、令和2年(32.5%)から令和5年(19.3%)まで減少しています。

⑬患者家族

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	77.1%	12.0%	2.4%	1.2%	7.2%
令和5年度調査	n=88	73.9%	12.5%	2.3%	3.4%	8.0%

患者家族との連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「重要である」が77.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が12.0%、「どちらかといえば重要ではない」が2.4%で続いています。

令和5年度調査では、「重要である」が73.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要である」が12.5%、「重要ではない」が3.4%で続いています。

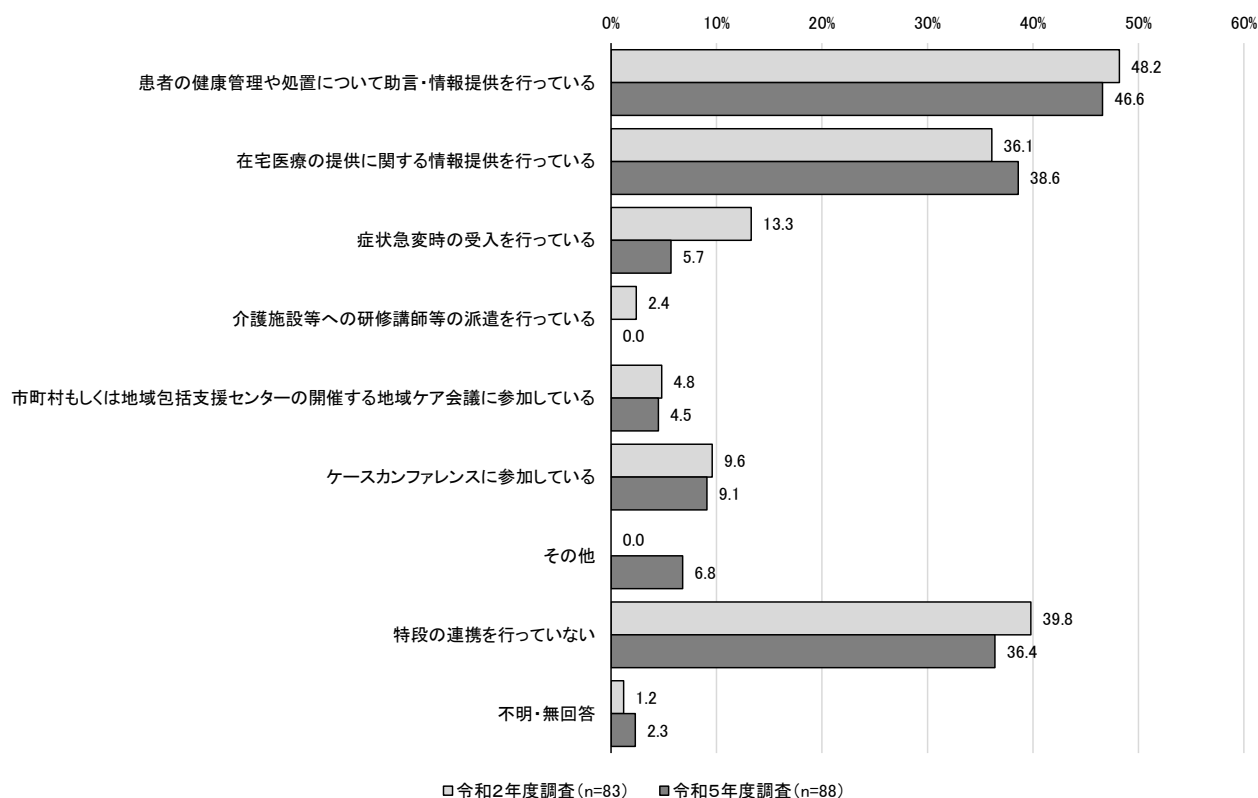
⑭ボランティア、NPOなど

	合計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要ではない	重要ではない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	14.5%	32.5%	32.5%	7.2%	13.3%
令和5年度調査	n=88	13.6%	36.4%	30.7%	10.2%	9.1%

ボランティアやNPOなどとの連携の重要度をみると、令和2年度調査では、「どちらかといえば重要である」と「どちらかといえば重要ではない」が、ともに32.5%で最も多く、次いで「重要である」が14.5%、「重要ではない」が7.2%で続いています。

令和5年度調査では、「どちらかといえば重要である」が36.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば重要ではない」が30.7%、「重要である」が13.6%で続いています。

4) 福祉・介護部門との連携状況（複数回答）



福祉・介護部門との連携状況をみると、令和2年度調査では、「患者の健康管理や処置について助言・情報提供を行っている」が48.2%で最も多く、次いで「特段の連携を行っていない」が39.8%、「在宅医療の提供に関する情報提供を行っている」が36.1%が続いています。

令和5年度調査では、「患者の健康管理や処置について助言・情報提供を行っている」が46.6%で最も多く、次いで「在宅医療の提供に関する情報提供を行っている」が38.6%、「特段の連携を行っていない」が36.4%が続いています。

5) 【患者本人のケアマネジャーとの何らかの連携を取っている医療機関について】

患者のケアマネジャーや利用している介護サービス事業者から提供を受ける必要がある情報
(主なもの3つまで選択)

	合計	患者の障がいや過去の病歴に関する情報	患者の普段の食生活や健康に関する情報	患者の家族や周囲の人から得られる支援に関する情報	患者の経済状態に関する情報	その他	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	72.3%	60.2%	68.7%	15.7%	20.5%	6.0%
令和5年度調査	n=88	45.5%	50.0%	48.9%	15.9%	2.3%	31.8%

患者のケアマネジャーや利用している介護サービス事業者から提供を受ける必要がある情報をみると、令和2年度調査では、「患者の障がいや過去の病歴に関する情報」が72.3%で最も多く、次いで「患者の家族や周囲の人から得られる支援に関する情報」が68.7%、「患者の普段の食生活や健康に関する情報」が60.2%で続いています。

令和5年度調査では、「患者の普段の食生活や健康に関する情報」が50.0%で最も多く、次いで「患者の家族や周囲の人から得られる支援に関する情報」が48.9%、「患者の障がいや過去の病歴に関する情報」が45.5%で続いています。

6) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組状況について

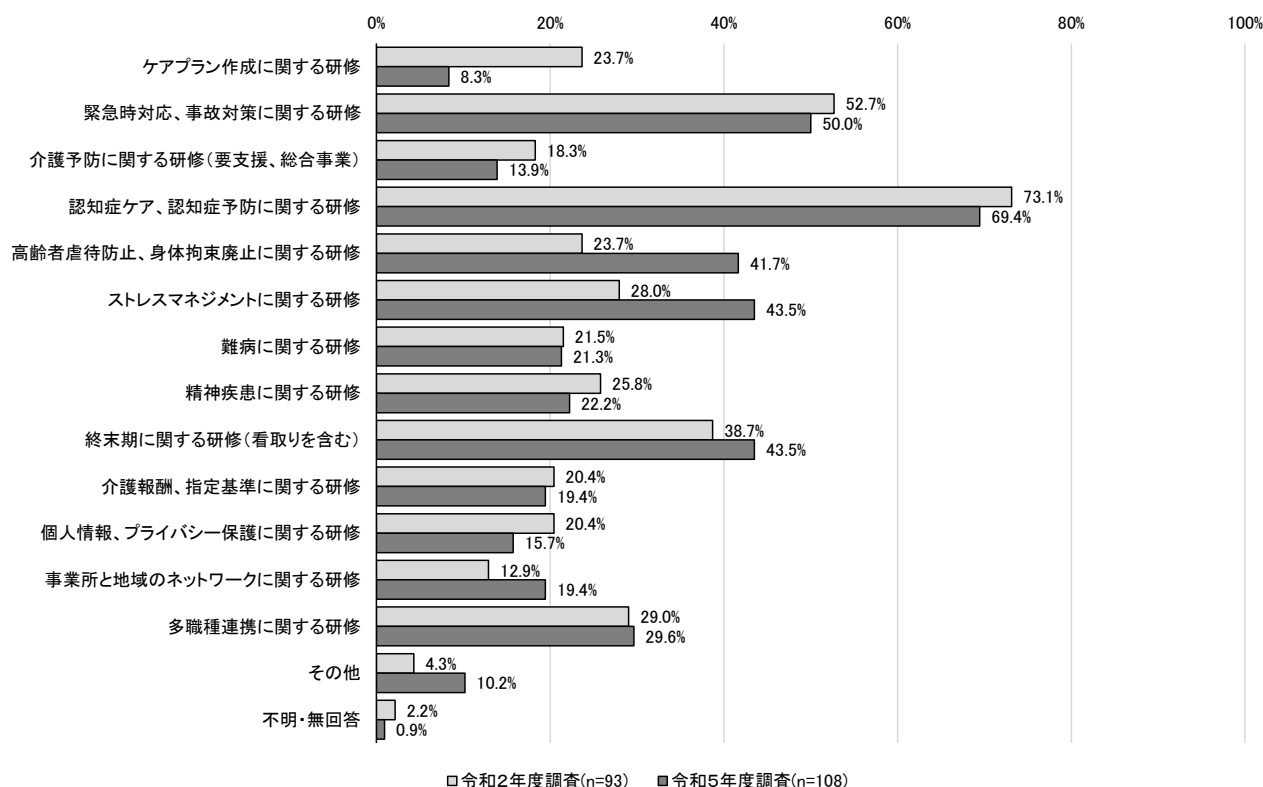
	合計	実践している	実践したことがない (実践する機会がない場合も含む)	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	知らない・聞いたことがない	不明・無回答
令和2年度調査	n=83	15.7%	28.9%	25.3%	27.7%	2.4%
令和5年度調査	n=88	15.9%	28.4%	18.2%	34.1%	3.4%

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)への取組状況をみると、令和2年度調査では、「実践したことがない(実践する機会がない場合も含む)」が28.9%で最も多く、次いで「知らない・聞いたことがない」が27.7%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が25.3%で続いています。

令和5年度調査では、「知らない・聞いたことがない」が34.1%で最も多く、次いで「実践したことがない(実践する機会がない場合も含む)」が28.4%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が18.2%で続いています。

Ⅲ 介護サービス事業者向けアンケート ①介護サービス事業者

1. 事業所職員に受講させたいと思う研修

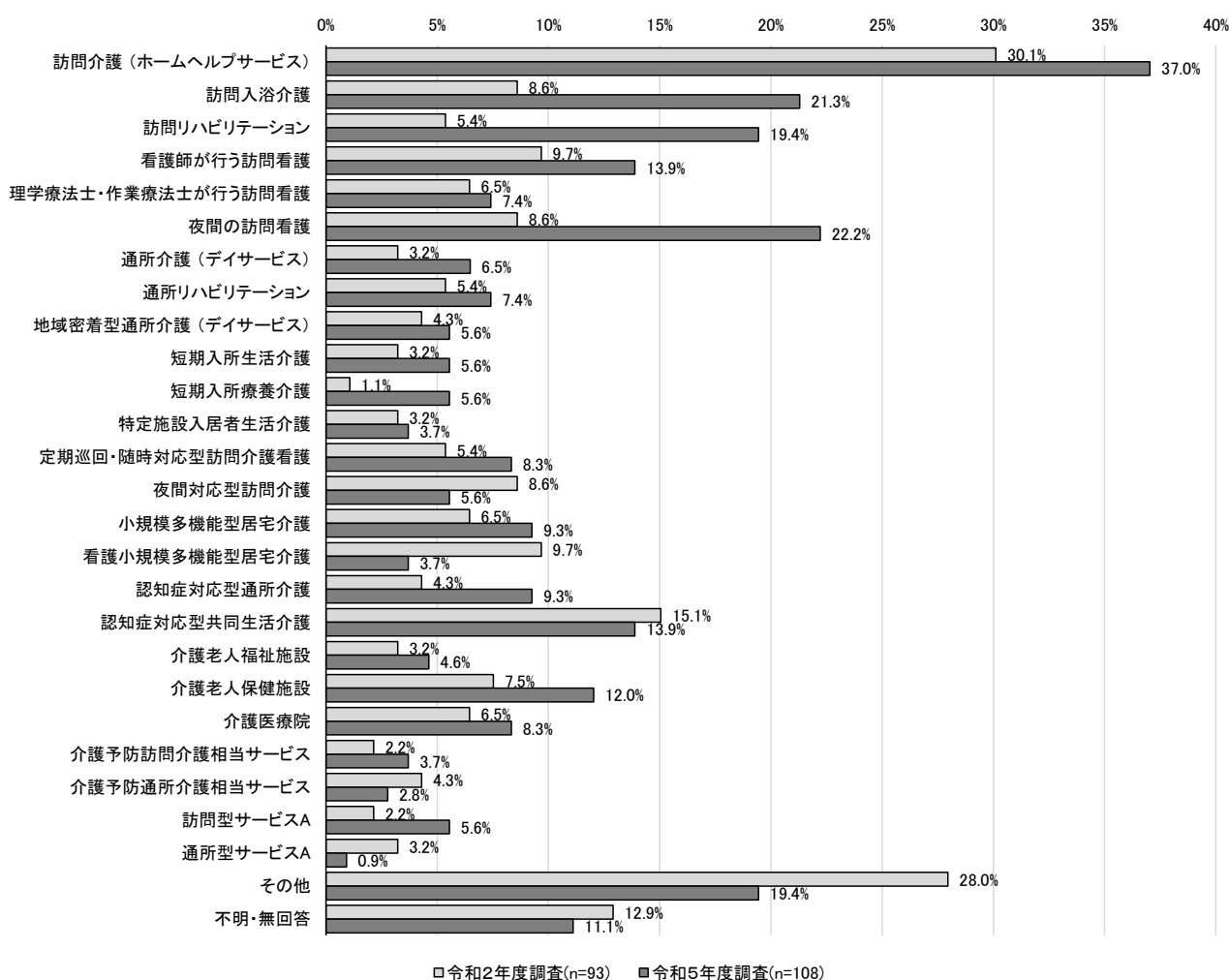


事業所職員に受講させたいと思う研修をみると、令和2年度調査では、「認知症ケア、認知症予防に関する研修」が73.1%で最も多く、次いで「緊急時対応、事故対策に関する研修」が52.7%、「終末期に関する研修(看取りを含む)」が38.7%が続いています。

令和5年度調査では、「認知症ケア、認知症予防に関する研修」が69.4%で最も多く、次いで「緊急時対応、事故対策に関する研修」が50.0%、「ストレスマネジメントに関する研修」と「終末期に関する研修(看取りを含む)」が、ともに43.5%が続いています。

「ケアプラン作成に関する研修」について、令和2年(23.7%)から令和5年(8.3%)まで減少しています。「高齢者虐待防止、身体拘束廃止に関する研修」について、令和2年(23.7%)から令和5年(41.7%)まで増加しています。また、「ストレスマネジメントに関する研修」について、令和2年(28.0%)から令和5年(43.5%)まで増加しています。

2. 今後、市内で充実が必要と思われるサービス



今後、市内で充実が必要と思われるサービスをみると、令和2年度調査では、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 30.1%で最も多く、次いで「その他」が 28.0%、「認知症対応型共同生活介護」が 15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 37.0%で最も多く、次いで「夜間の訪問看護」が 22.2%、「訪問入浴介護」が 21.3%で続いています。

「訪問入浴介護」について、令和2年(8.6%)から令和5年(21.3%)まで増加しています。

「訪問リハビリテーション」について、令和2年(5.4%)から令和5年(19.4%)まで増加しています。

また、「夜間の訪問看護」について、令和2年(8.6%)から令和5年(22.2%)まで増加しています。

3. サービス利用者の情報についての連携状況

①主治医・かかりつけ医

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	35.5%	43.0%	11.8%	5.4%	4.3%
令和5年度調査	n=108	33.3%	38.9%	10.2%	12.0%	5.6%

主治医・かかりつけ医との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が43.0%で最も多く、次いで「よくとれている」が35.5%、「あまりとれていない」が11.8%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が38.9%で最も多く、次いで「よくとれている」が33.3%、「ほとんどとれていない」が12.0%が続いています。

②歯科医師

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	21.5%	30.1%	25.8%	14.0%	8.6%
令和5年度調査	n=108	16.7%	28.7%	16.7%	31.5%	6.5%

歯科医師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が30.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が25.8%、「よくとれている」が21.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が31.5%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が28.7%、「よくとれている」と「あまりとれていない」が、ともに16.7%が続いています。

「ほとんどとれていない」について、令和2年(14.0%)から令和5年(31.5%)まで増加しています。

③薬剤師

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	22.6%	33.3%	23.7%	11.8%	8.6%
令和5年度調査	n=108	30.6%	24.1%	20.4%	18.5%	6.5%

薬剤師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が33.3%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が23.7%、「よくとれている」が22.6%が続いています。

令和5年度調査では、「よくとれている」が30.6%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が24.1%、「あまりとれていない」が20.4%が続いています。

④理学療法士等のリハビリ職

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	12.9%	44.1%	23.7%	11.8%	7.5%
令和5年度調査	n=108	24.1%	35.2%	11.1%	19.4%	10.2%

理学療法士等のリハビリ職連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が44.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が23.7%、「よくとれている」が12.9%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が35.2%で最も多く、次いで「よくとれている」が24.1%、「ほとんどとれていない」が19.4%が続いています。

「よくとれている」について、令和2年(12.9%)から令和5年(24.1%)まで増加しています。また、「あまりとれていない」について、令和2年(23.7%)から令和5年(11.1%)まで減少しています。

⑤医療ソーシャルワーカー

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	8.6%	34.4%	35.5%	10.8%	10.8%
令和5年度調査	n=108	15.7%	39.8%	21.3%	13.9%	9.3%

医療ソーシャルワーカー連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が35.5%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が34.4%、「ほとんどとれていない」が10.8%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が39.8%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が21.3%、「よくとれている」が15.7%が続いています。

「あまりとれていない」について、令和2年(35.5%)から令和5年(21.3%)まで減少しています。

⑥地域包括支援センター

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	24.7%	48.4%	12.9%	6.5%	7.5%
令和5年度調査	n=108	35.2%	45.4%	8.3%	6.5%	4.6%

地域包括支援センター連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が48.4%で最も多く、次いで「よくとれている」が24.7%、「あまりとれていない」が12.9%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が45.4%で最も多く、次いで「よくとれている」が35.2%、「あまりとれていない」が8.3%が続いています。

⑦居宅介護支援事業所

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	46.2%	40.9%	4.3%	1.1%	7.5%
令和5年度調査	n=108	50.9%	38.0%	3.7%	0.9%	6.5%

居宅介護支援事業所連携状況をみると、令和2年度調査では、「よくとれている」が46.2%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が40.9%、「あまりとれていない」が4.3%が続いています。

令和5年度調査では、「よくとれている」が50.9%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が38.0%、「あまりとれていない」が3.7%が続いています。

⑧介護保険サービス事業者

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	16.1%	49.5%	21.5%	3.2%	9.7%
令和5年度調査	n=108	15.7%	59.3%	12.0%	3.7%	9.3%

介護保険サービス事業者 連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が49.5%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が21.5%、「よくとれている」が16.1%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が59.3%で最も多く、次いで「よくとれている」が15.7%、「あまりとれていない」が12.0%で続いています。

⑨市町村の介護保険担当者等

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	10.8%	44.1%	30.1%	7.5%	7.5%
令和5年度調査	n=108	8.3%	46.3%	22.2%	16.7%	6.5%

市町村の介護保険担当者等 連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が44.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が30.1%、「よくとれている」が10.8%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が46.3%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が22.2%、「ほとんどとれていない」が16.7%で続いています。

⑩自治会関係者、民生委員

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	4.3%	29.0%	45.2%	12.9%	8.6%
令和5年度調査	n=108	8.3%	18.5%	31.5%	36.1%	5.6%

自治会関係者、民生委員 連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が45.2%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が29.0%、「ほとんどとれていない」が12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が36.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が31.5%、「ある程度とれている」が18.5%で続いています。

「あまりとれていない」について、令和2年(45.2%)から令和5年(31.5%)まで減少しています。また、「ほとんどとれていない」について、令和2年(12.9%)から令和5年(36.1%)まで増加しています。

⑪社会福祉協議会

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	3.2%	31.2%	39.8%	15.1%	10.8%
令和5年度調査	n=108	8.3%	25.0%	31.5%	29.6%	5.6%

社会福祉協議会 連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が39.8%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が31.2%、「ほとんどとれていない」が15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「あまりとれていない」が31.5%で最も多く、次いで「ほとんどとれていない」が29.6%、「ある程度とれている」が25.0%で続いています。

「ほとんどとれていない」について、令和2年(15.1%)から令和5年(29.6%)まで増加しています。

⑫患者家族

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	53.8%	36.6%	4.3%	0.0%	5.4%
令和5年度調査	n=108	64.8%	26.9%	3.7%	0.0%	4.6%

患者家族「連携状況」をみると、令和2年度調査では、「よくとれている」が 53.8%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が 36.6%、「あまりとれていない」が 4.3%で続いています。

令和5年度調査では、「よくとれている」が 64.8%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が 26.9%、「あまりとれていない」が 3.7%で続いています。

⑬ボランティアなど

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	9.7%	30.1%	35.5%	17.2%	7.5%
令和5年度調査	n=108	0.9%	25.0%	30.6%	37.0%	6.5%

ボランティアなど「連携状況」をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が 35.5%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が 30.1%、「ほとんどとれていない」が 17.2%で続いています。

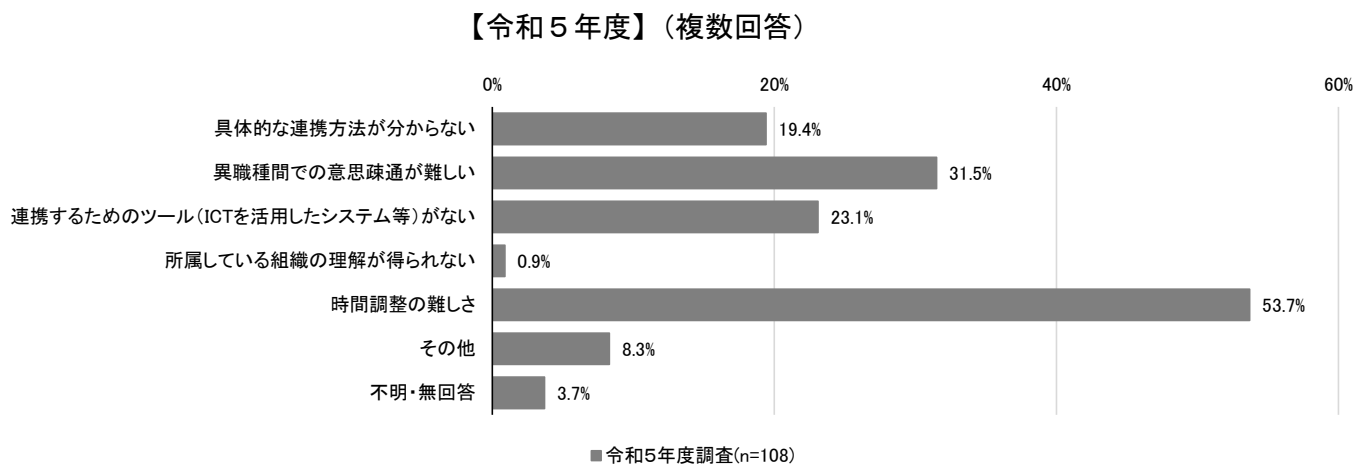
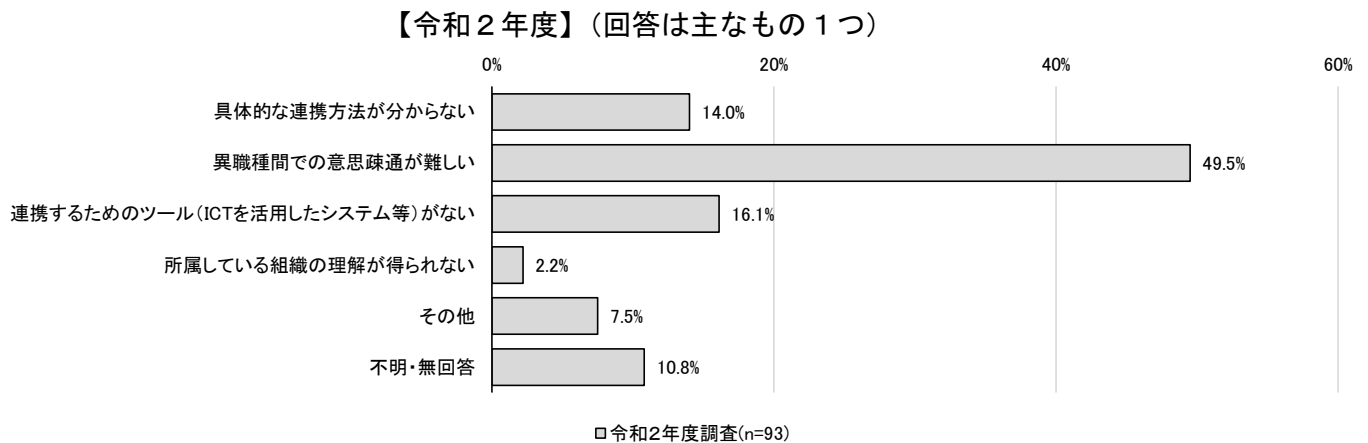
令和5年度調査では、「ほとんどとれていない」が 37.0%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が 30.6%、「ある程度とれている」が 25.0%で続いています。

「ほとんどとれていない」について、令和2年(17.2%)から令和5年(37.0%)まで増加しています。

4. 介護従事者と医療関係者等が連携を進める上での課題

※「介護従事者と医療関係者等が連携を進める上での課題」は「独立性の検定」の処理対象の設問ではない。

ここでは、参考として各年度の単純集計結果を示す。



注)本設問は、令和2年度調査になく、令和5年度調査にある選択肢(「時間調整の難しさ」)がある。また、シングル回答、マルチ回答の違いにも留意する必要がある。

5. 医療ニーズの高い利用者に対する支援

①末梢点滴管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	20.4%	1.1%	15.1%	54.8%	8.6%
令和5年度調査	n=108	18.5%	3.7%	10.2%	53.7%	13.9%

末梢点滴管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が 54.8%で最も多く、次いで「対応している」が 20.4%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が 53.7%で最も多く、次いで「対応している」が 18.5%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 10.2%で続いています。

②中心静脈の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	12.9%	2.2%	11.8%	63.4%	9.7%
令和5年度調査	n=108	13.0%	1.9%	13.9%	57.4%	13.9%

中心静脈の管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が 63.4%で最も多く、次いで「対応している」が 12.9%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 11.8%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が 57.4%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 13.9%、「対応している」が 13.0%で続いています。

③経鼻栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	15.1%	0.0%	19.4%	57.0%	8.6%
令和5年度調査	n=108	13.9%	0.9%	20.4%	53.7%	11.1%

経鼻栄養管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が 57.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 19.4%、「対応している」が 15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が 53.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 20.4%、「対応している」が 13.9%で続いています。

④胃ろう栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	50.5%	0.0%	11.8%	31.2%	6.5%
令和5年度調査	n=108	40.7%	0.0%	13.0%	35.2%	11.1%

胃ろう栄養管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 50.5%で最も多く、次いで「出来ない」が 31.2%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 11.8%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 40.7%で最も多く、次いで「出来ない」が 35.2%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 13.0%で続いています。

⑤腸ろう栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	21.5%	1.1%	20.4%	49.5%	7.5%
令和5年度調査	n=108	13.0%	0.0%	22.2%	52.8%	12.0%

腸ろう栄養管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が49.5%で最も多く、次いで「対応している」が21.5%、「実績はないが、対応可能と思われる」が20.4%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が52.8%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が22.2%、「対応している」が13.0%で続いています。

⑥がん性疼痛管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	26.9%	0.0%	14.0%	50.5%	8.6%
令和5年度調査	n=108	18.5%	7.4%	14.8%	45.4%	13.9%

がん性疼痛管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が50.5%で最も多く、次いで「対応している」が26.9%、「実績はないが、対応可能と思われる」が14.0%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が45.4%で最も多く、次いで「対応している」が18.5%、「実績はないが、対応可能と思われる」が14.8%で続いています。

「対応しているが、かなり困難」について、令和2年(0.0%)から令和5年(7.4%)まで増加しています。

⑦麻薬処方をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	18.3%	1.1%	12.9%	60.2%	7.5%
令和5年度調査	n=108	13.0%	3.7%	13.0%	54.6%	15.7%

麻薬処方をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が60.2%で最も多く、次いで「対応している」が18.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が54.6%で最も多く、次いで「対応している」と「実績はないが、対応可能と思われる」が、ともに13.0%、「対応しているが、かなり困難」が3.7%で続いています。

⑧褥瘡の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=93	59.1%	5.4%	11.8%	15.1%	8.6%
令和5年度調査	n=108	48.1%	2.8%	15.7%	20.4%	13.0%

褥瘡の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が59.1%で最も多く、次いで「出来ない」が15.1%、「実績はないが、対応可能と思われる」が11.8%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が48.1%で最も多く、次いで「出来ない」が20.4%、「実績はないが、対応可能と思われる」が15.7%で続いています。

⑨人口肛門の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	50.5%	3.2%	18.3%	20.4%	7.5%
令和5年度調査	n=108	38.9%	3.7%	23.1%	21.3%	13.0%

人工肛門の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 50.5%で最も多く、次いで「出来ない」が 20.4%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 18.3%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 38.9%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 23.1%、「出来ない」が 21.3%で続いています。

⑩気管切開部の処置をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	17.2%	0.0%	15.1%	60.2%	7.5%
令和5年度調査	n=108	16.7%	1.9%	19.4%	50.0%	12.0%

気管切開部の処置をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が 60.2%で最も多く、次いで「対応している」が 17.2%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が 50.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 19.4%、「対応している」が 16.7%で続いています。

⑪在宅酸素療法をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	60.2%	2.2%	14.0%	17.2%	6.5%
令和5年度調査	n=108	53.7%	3.7%	14.8%	16.7%	11.1%

在宅酸素療法をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 60.2%で最も多く、次いで「出来ない」が 17.2%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 14.0%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 53.7%で最も多く、次いで「出来ない」が 16.7%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 14.8%で続いています。

⑫CPAP・鼻マスクをしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	23.7%	1.1%	25.8%	39.8%	9.7%
令和5年度調査	n=108	21.3%	2.8%	26.9%	36.1%	13.0%

CPAP・鼻マスクをみると、令和2年度調査では、「出来ない」が39.8%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が25.8%、「対応している」が23.7%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が36.1%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が26.9%、「対応している」が21.3%で続いています。

⑬人工呼吸管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	7.5%	0.0%	10.8%	74.2%	7.5%
令和5年度調査	n=108	8.3%	0.9%	10.2%	65.7%	14.8%

人工呼吸管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が74.2%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が10.8%、「対応している」が7.5%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が65.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が10.2%、「対応している」が8.3%で続いています。

⑭尿道カテーテル管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	53.8%	4.3%	11.8%	23.7%	6.5%
令和5年度調査	n=108	58.3%	1.9%	10.2%	18.5%	11.1%

尿道カテーテル管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が53.8%で最も多く、次いで「出来ない」が23.7%、「実績はないが、対応可能と思われる」が11.8%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が58.3%で最も多く、次いで「出来ない」が18.5%、「実績はないが、対応可能と思われる」が10.2%で続いています。

⑮導入剤自己注射の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	25.8%	1.1%	21.5%	43.0%	8.6%
令和5年度調査	n=108	13.9%	0.9%	25.0%	44.4%	15.7%

導入剤自己注射の管理をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が43.0%で最も多く、次いで「対応している」が25.8%、「実績はないが、対応可能と思われる」が21.5%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が44.4%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が25.0%、「対応している」が13.9%で続いています。

⑩人工透析をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	22.6%	0.0%	18.3%	50.5%	8.6%
令和5年度調査	n=108	25.0%	2.8%	12.0%	45.4%	14.8%

人工透析をみると、令和2年度調査では、「出来ない」が50.5%で最も多く、次いで「対応している」が22.6%、「実績はないが、対応可能と思われる」が18.3%で続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が45.4%で最も多く、次いで「対応している」が25.0%、「実績はないが、対応可能と思われる」が12.0%で続いています。

⑪吸引（気管切開以外）をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	34.4%	6.5%	19.4%	32.3%	7.5%
令和5年度調査	n=108	37.0%	5.6%	7.4%	35.2%	14.8%

吸引（気管切開以外）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が34.4%で最も多く、次いで「出来ない」が32.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が19.4%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が37.0%で最も多く、次いで「出来ない」が35.2%、「実績はないが、対応可能と思われる」が7.4%で続いています。

「実績はないが、対応可能と思われる」について、令和2年(19.4%)から令和5年(7.4%)まで減少しています。

⑫血糖管理をしている（インシュリン自己注射可）

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	54.8%	6.5%	18.3%	15.1%	5.4%
令和5年度調査	n=108	46.3%	3.7%	19.4%	17.6%	13.0%

血糖管理（インシュリン自己注射可）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が54.8%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が18.3%、「出来ない」が15.1%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が46.3%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が19.4%、「出来ない」が17.6%で続いています。

⑬血糖管理をしている（インシュリン自己注射不可）

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	43.0%	6.5%	11.8%	28.0%	10.8%
令和5年度調査	n=108	34.3%	6.5%	11.1%	32.4%	15.7%

血糖管理（インシュリン自己注射不可）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が43.0%で最も多く、次いで「出来ない」が28.0%、「実績はないが、対応可能と思われる」が11.8%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が34.3%で最も多く、次いで「出来ない」が32.4%、「実績はないが、対応可能と思われる」が11.1%で続いています。

6. 利用者の看取りの実施状況

1) 利用者の看取りの実施有無

	合計	行っている	行っていない	現在は行っていないが、 今後は行っていきたい	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=93	41.9%	44.1%	6.5%	7.5%
令和5年度調査	n=108	45.4%	39.8%	5.6%	9.3%

利用者の看取りは行っているかをみると、令和2年度調査では、「行っていない」が44.1%で最も多く、次いで「行っている」が41.9%、「現在は行っていないが、今後は行っていきたい」が6.5%で続いています。

令和5年度調査では、「行っている」が45.4%で最も多く、次いで「行っていない」が39.8%、「現在は行っていないが、今後は行っていきたい」が5.6%で続いています。

2) 前年度の利用者の看取りの実績数

	合計	0人	1～5人	6～10人	11～15人	16人以上	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=39	17.9%	59.0%	10.3%	7.7%	0.0%	5.1%
令和5年度調査	n=49	8.2%	61.2%	14.3%	8.2%	4.1%	4.1%

前年度の看取り実績数をみると、令和2年度調査では、「1～5人」が59.0%で最も多く、次いで「0人」が17.9%、「6～10人」が10.3%で続いています。平均は3.1人となっています。

令和5年度調査では、「1～5人」が61.2%で最も多く、次いで「6～10人」が14.3%、「0人」と「11～15人」が、ともに8.2%で続いています。平均は5.1人となっています。

3) 現在行っていない理由や行う上での課題（複数回答）

	合計	専門的人員 がいない	必要な設備 がない	希望者がい ない	他の利用者 や家族の理 解が得にく い	その他	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=47	23.4%	21.3%	44.7%	2.1%	25.5%	2.1%
令和5年度調査	n=50	18.0%	40.0%	26.0%	10.0%	34.0%	6.0%

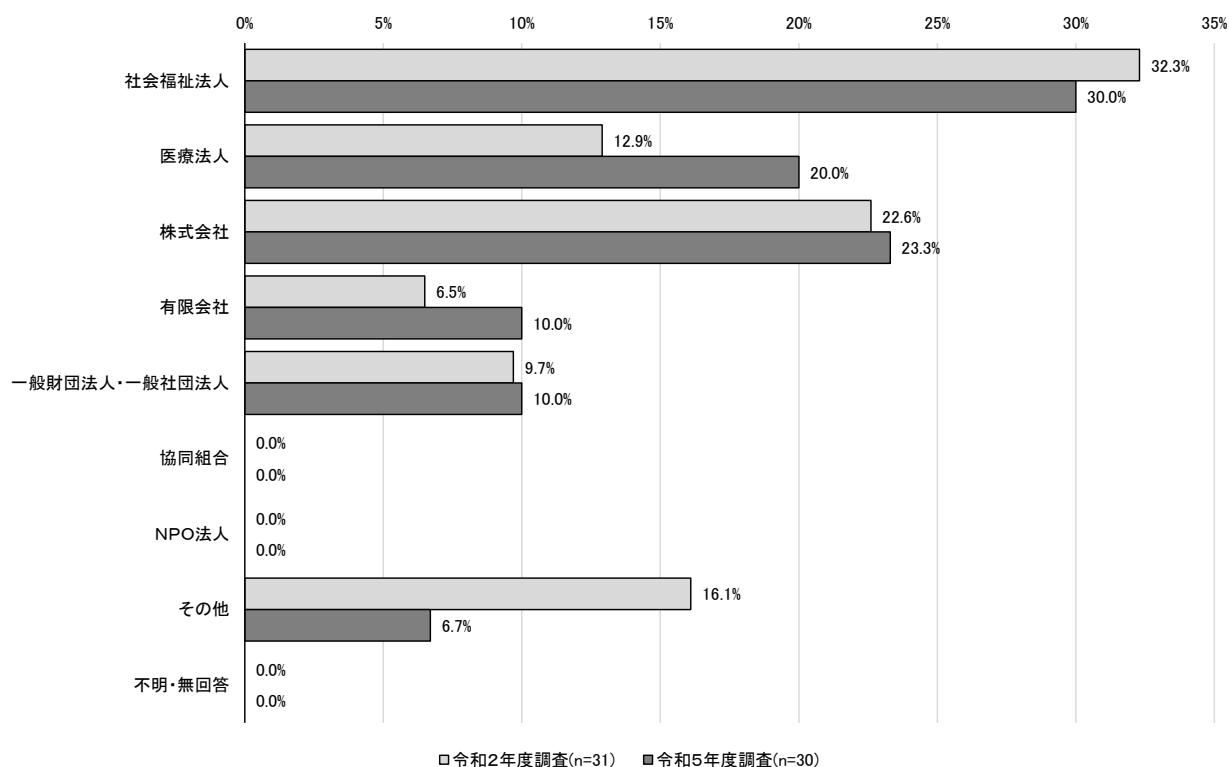
現在行っていない理由や行う上での課題をみると、令和2年度調査では、「希望者がいない」が44.7%で最も多く、次いで「その他」が25.5%、「専門的人員がいない」が23.4%で続いています。

令和5年度調査では、「必要な設備がない」が40.0%で最も多く、次いで「その他」が34.0%、「希望者がいない」が26.0%で続いています。

「必要な設備がない」について、令和2年(21.3%)から令和5年(40.0%)まで増加しています。

IV 介護サービス事業者向けアンケート ②居宅介護支援事業所等

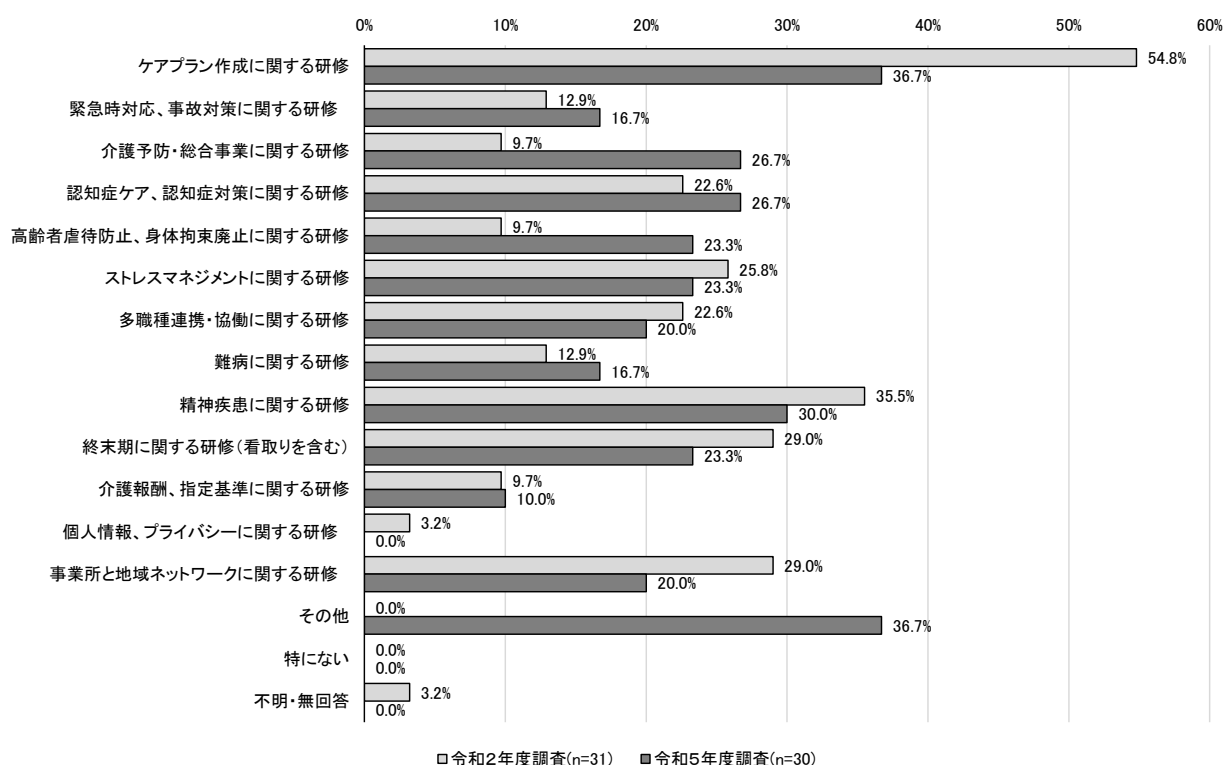
1. 事業所の運営主体



事業所の運営主体をみると、令和2年度調査では、「社会福祉法人」が 32.3%で最も多く、次いで「株式会社」が 22.6%、「その他」が 16.1%が続いています。

令和5年度調査では、「社会福祉法人」が 30.0%で最も多く、次いで「株式会社」が 23.3%、「医療法人」が 20.0%が続いています。

2. 事業所職員に受講させたいと思う研修



事業所職員に受講させたいと思う研修をみると、令和2年度調査では、「ケアプラン作成に関する研修」が54.8%で最も多く、次いで「精神疾患に関する研修」が35.5%、「終末期に関する研修(看取りを含む)」と「事業所と地域ネットワークに関する研修」が、ともに29.0%で続いています。

令和5年度調査では、「ケアプラン作成に関する研修」と「その他」が、ともに36.7%で最も多く、次いで「精神疾患に関する研修」が30.0%、「介護予防・総合事業に関する研修」と「認知症ケア、認知症対策に関する研修」が、ともに26.7%で続いています。

3. 地域包括支援センターの役割で望んでいること(複数回答)

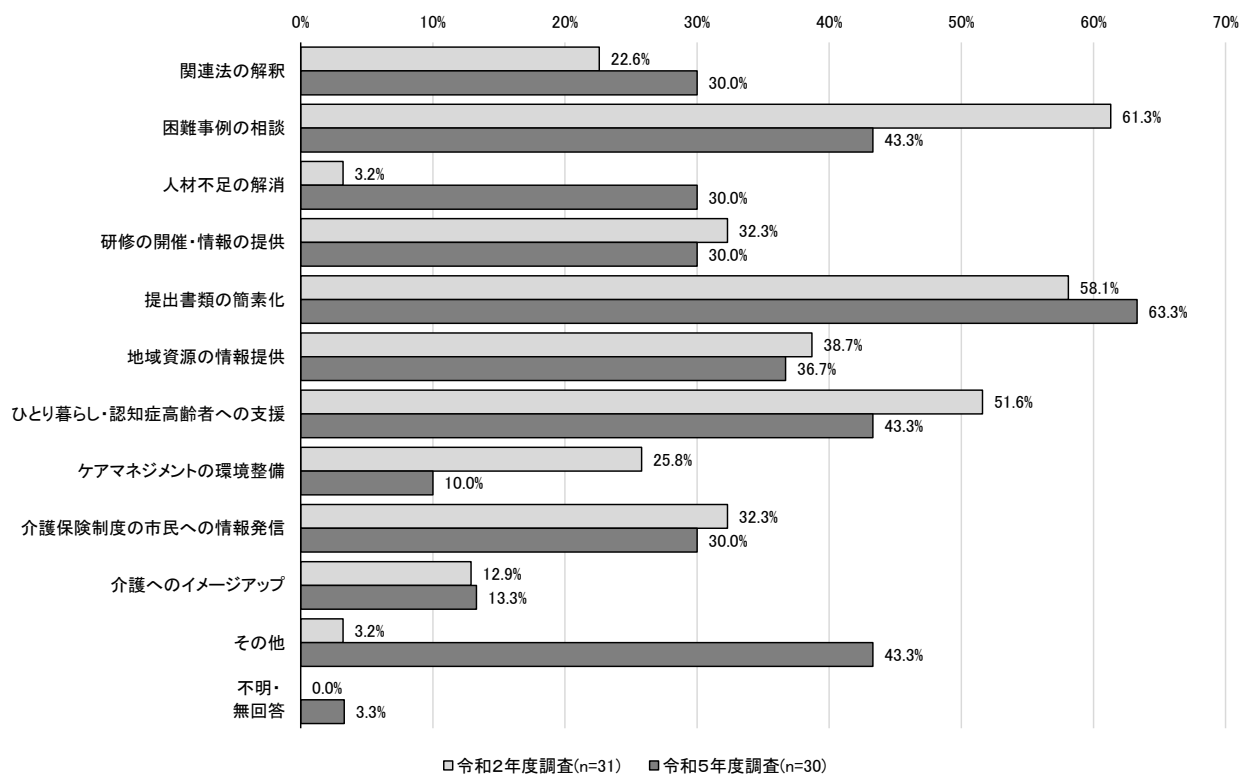
	合計	困難事例の相談・対応	関係機関とのネットワーク作り	研修の開催・情報の提供	医療機関との連携支援	要支援者との円滑な引継ぎ	その他	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	54.8%	58.1%	32.3%	22.6%	35.5%	6.5%	6.5%
令和5年度調査	n=30	87.0%	52.2%	39.1%	4.3%	47.8%	4.3%	0.0%

地域包括支援センターの役割で望んでいることをみると、令和2年度調査では、「関係機関とのネットワーク作り」が58.1%で最も多く、次いで「困難事例の相談・対応」が54.8%、「要支援者との円滑な引継ぎ」が35.5%で続いています。

令和5年度調査では、「困難事例の相談・対応」が87.0%で最も多く、次いで「関係機関とのネットワーク作り」が52.2%、「要支援者との円滑な引継ぎ」が47.8%で続いています。

「困難事例の相談・対応」について、令和2年(54.8%)から令和5年(87.0%)まで増加しています。また、「医療機関との連携支援」について、令和2年(22.6%)から令和5年(4.3%)まで減少しています。

4. 行政機関の役割として望んでいること



行政機関の役割として望んでいることをみると、令和2年度調査では、「困難事例の相談」が 61.3%で最も多く、次いで「提出書類の簡素化」が 58.1%、「ひとり暮らし・認知症高齢者への支援」が 51.6%が続いています。

令和5年度調査では、「提出書類の簡素化」が 63.3%で最も多く、次いで「困難事例の相談」と「ひとり暮らし・認知症高齢者への支援」と「その他」が、ともに 43.3%、「地域資源の情報提供」が 36.7%が続いています。

「人材不足の解消」について、令和2年(3.2%)から令和5年(30.0%)まで増加しています。

5. サービス利用者の情報についての連携状況

①主治医・かかりつけ医

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	16.1%	67.7%	12.9%	0.0%	3.2%
令和5年度調査	n=30	16.7%	60.0%	20.0%	0.0%	3.3%

主治医・かかりつけ医との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が 67.7%で最も多く、次いで「よくとれている」が 16.1%、「あまりとれていない」が 12.9%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が 60.0%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が 20.0%、「よくとれている」が 16.7%が続いています。

②歯科医師

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	3.2%	35.5%	48.4%	9.7%	3.2%
令和5年度調査	n=30	3.3%	26.7%	46.7%	20.0%	3.3%

歯科医師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が48.4%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が35.5%、「ほとんどとれていない」が9.7%で続いています。

令和5年度調査では、「あまりとれていない」が46.7%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が26.7%、「ほとんどとれていない」が20.0%で続いています。

③薬剤師

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	3.2%	58.1%	32.3%	3.2%	3.2%
令和5年度調査	n=30	6.7%	56.7%	30.0%	3.3%	3.3%

薬剤師との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が58.1%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が32.3%、「よくとれている」と「ほとんどとれていない」が、ともに3.2%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が56.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が30.0%、「よくとれている」が6.7%で続いています。

④理学療法士等のリハビリ職

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	25.8%	58.1%	12.9%	0.0%	3.2%
令和5年度調査	n=30	40.0%	56.7%	0.0%	0.0%	3.3%

理学療法士等のリハビリ職との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が58.1%で最も多く、次いで「よくとれている」が25.8%、「あまりとれていない」が12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が56.7%で最も多く、次いで「よくとれている」が40.0%で続いています。

「あまりとれていない」について、令和2年(12.9%)から令和5年(0.0%)まで減少しています。

⑤医療ソーシャルワーカー

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	35.5%	48.4%	12.9%	0.0%	3.2%
令和5年度調査	n=30	26.7%	66.7%	3.3%	0.0%	3.3%

医療ソーシャルワーカーとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が48.4%で最も多く、次いで「よくとれている」が35.5%、「あまりとれていない」が12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が66.7%で最も多く、次いで「よくとれている」が26.7%、「あまりとれていない」が3.3%で続いています。

⑥地域包括支援センター

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	45.2%	48.4%	3.2%	0.0%	3.2%
令和5年度調査	n=30	43.3%	50.0%	0.0%	0.0%	6.7%

地域包括支援センターとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が48.4%で最も多く、次いで「よくとれている」が45.2%、「あまりとれていない」が3.2%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が50.0%で最も多く、次いで「よくとれている」が43.3%が続いています。

⑦居宅介護支援事業所

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	32.3%	51.6%	9.7%	0.0%	6.5%
令和5年度調査	n=30	23.3%	56.7%	13.3%	3.3%	3.3%

居宅介護支援事業所との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が51.6%で最も多く、次いで「よくとれている」が32.3%、「あまりとれていない」が9.7%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が56.7%で最も多く、次いで「よくとれている」が23.3%、「あまりとれていない」が13.3%が続いています。

⑧介護保険サービス事業者

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	51.6%	41.9%	0.0%	0.0%	6.5%
令和5年度調査	n=30	46.7%	50.0%	0.0%	0.0%	3.3%

介護保険サービス事業者との連携状況をみると、令和2年度調査では、「よくとれている」が51.6%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が41.9%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が50.0%で最も多く、次いで「よくとれている」が46.7%が続いています。

⑨市町村の介護保険担当者等

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	32.3%	54.8%	9.7%	0.0%	3.2%
令和5年度調査	n=30	30.0%	66.7%	0.0%	0.0%	3.3%

市町村の介護保険担当者等との連携状況をみると、令和2年度調査では、「ある程度とれている」が54.8%で最も多く、次いで「よくとれている」が32.3%、「あまりとれていない」が9.7%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が66.7%で最も多く、次いで「よくとれている」が30.0%が続いています。

⑩自治会関係者、民生委員

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	3.2%	35.5%	48.4%	6.5%	6.5%
令和5年度調査	n=30	6.7%	46.7%	33.3%	10.0%	3.3%

自治会関係者、民生委員との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が48.4%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が35.5%、「ほとんどとれていない」が6.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が46.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が33.3%、「ほとんどとれていない」が10.0%が続いています。

⑪社会福祉協議会

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	3.2%	38.7%	45.2%	6.5%	6.5%
令和5年度調査	n=30	16.7%	50.0%	23.3%	6.7%	3.3%

社会福祉協議会との連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が45.2%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が38.7%、「ほとんどとれていない」が6.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が50.0%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が23.3%、「よくとれている」が16.7%が続いています。

⑫患者家族

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	45.2%	38.7%	9.7%	0.0%	6.5%
令和5年度調査	n=30	46.7%	46.7%	3.3%	0.0%	3.3%

患者家族との連携状況をみると、令和2年度調査では、「よくとれている」が45.2%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が38.7%、「あまりとれていない」が9.7%が続いています。

令和5年度調査では、「よくとれている」と「ある程度とれている」が、ともに46.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が3.3%が続いています。

⑬ボランティアなど

	合計	よくとれている	ある程度とれている	あまりとれていない	ほとんどとれていない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	0.0%	38.7%	48.4%	6.5%	6.5%
令和5年度調査	n=30	6.7%	36.7%	33.3%	20.0%	3.3%

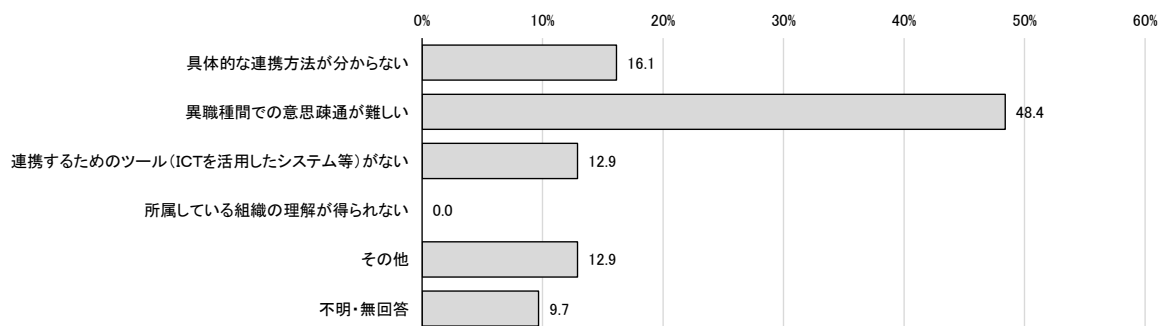
ボランティアなどとの連携状況をみると、令和2年度調査では、「あまりとれていない」が48.4%で最も多く、次いで「ある程度とれている」が38.7%、「ほとんどとれていない」が6.5%が続いています。

令和5年度調査では、「ある程度とれている」が36.7%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が33.3%、「ほとんどとれていない」が20.0%が続いています。

6. 介護従事者と医療関係者等の連携上の課題

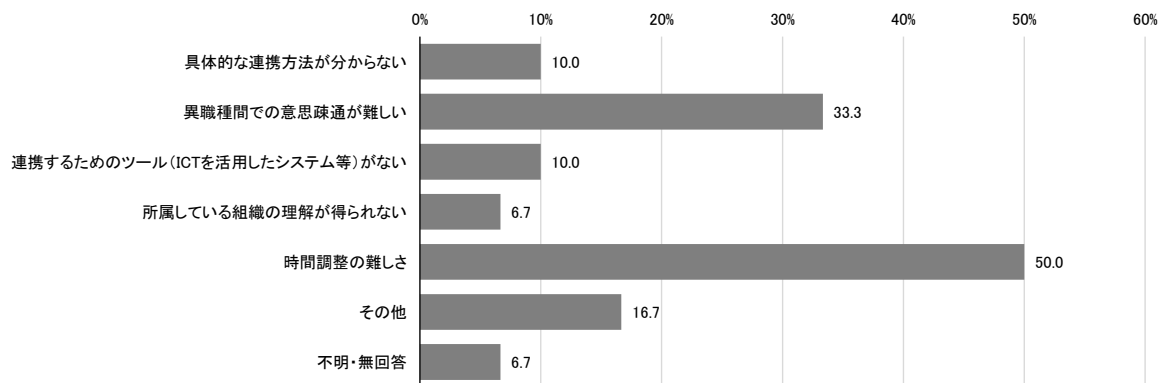
※「介護従事者と医療関係者等の連携上の課題」は「独立性の検定」の処理対象の設問ではない。
ここでは、参考として各年度の単純集計結果を示す。

【令和2年度】（回答は主なもの1つ）



□ 令和2年度調査(n=31)

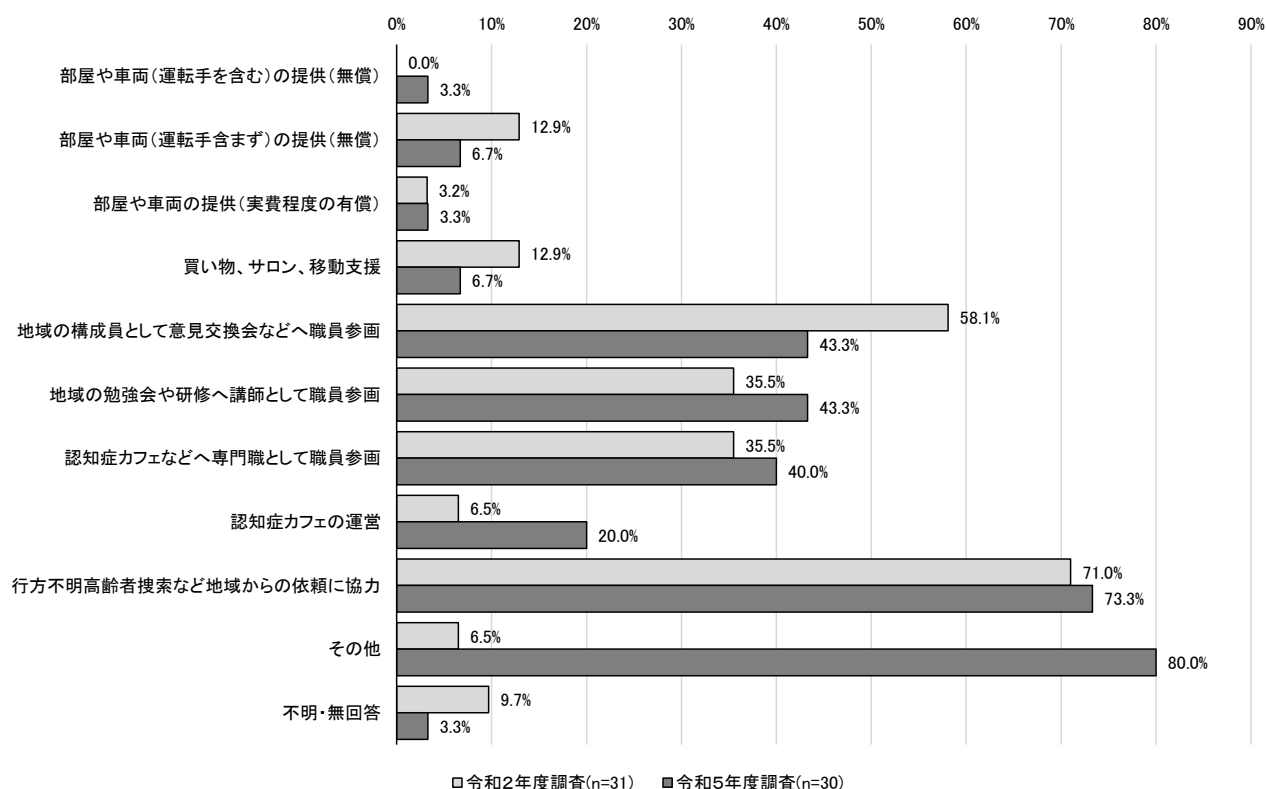
【令和5年度】（複数回答）



■ 令和5年度調査(n=30)

注) 本設問は、令和2年度調査になく、令和5年度調査にある選択肢(「時間調整の難しさ」)がある。また、シングル回答、マルチ回答の違いにも留意する必要がある。

7. 地域との連携や協力でしている、出来そうなこと(複数回答)



注)本設問は、令和2年度調査はなく、令和5年度調査にはある選択肢(「いきいき百歳体操の運営」「介護や健康に関する相談」)がある。経年比較にあたって、令和5年度調査では、「いきいき百歳体操の運営」「介護や健康に関する相談」の回答を「その他」に統合して処理した。

統合する前の「いきいき百歳体操の運営」「介護や健康に関する相談」の回答割合は以下の通り。

「いきいき百歳体操の運営」 20.0% 「介護や健康に関する相談」 73.3%

地域との連携や協力でしている、出来そうなことをみると、令和2年度調査では、「行方不明高齢者捜索など地域からの依頼に協力」が 71.0%で最も多く、次いで「地域の構成員として意見交換会などへ職員参画」が 58.1%、「地域の勉強会や研修へ講師として職員参画」と「認知症カフェなどへ専門職として職員参画」が、ともに 35.5%で続いています。

令和5年度調査では、「その他」が 80.0%で最も多く、次いで「行方不明高齢者捜索など地域からの依頼に協力」が 73.3%、「地域の構成員として意見交換会などへ職員参画」と「地域の勉強会や研修へ講師として職員参画」が、ともに 43.3%で続いています。

8. 医療ニーズの高い利用者に対する支援

①末梢点滴管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	32.3%	3.2%	38.7%	3.2%	22.6%
令和5年度調査	n=30	40.0%	0.0%	30.0%	20.0%	10.0%

末梢点滴管理をみると、令和2年度調査では、「実績はないが、対応可能と思われる」が 38.7%で最も多く、次いで「対応している」が 32.3%、「対応しているが、かなり困難」と「出来ない」が、ともに 3.2%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 40.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 30.0%、「出来ない」が 20.0%で続いています。

②中心静脈の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	35.5%	3.2%	32.3%	6.5%	22.6%
令和5年度調査	n=30	40.0%	3.3%	16.7%	26.7%	13.3%

中心静脈の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 35.5%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 32.3%、「出来ない」が 6.5%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 40.0%で最も多く、次いで「出来ない」が 26.7%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 16.7%で続いています。

「出来ない」について、令和2年(6.5%)から令和5年(26.7%)まで増加しています。

③経鼻栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	51.6%	3.2%	19.4%	6.5%	19.4%
令和5年度調査	n=30	50.0%	6.7%	16.7%	16.7%	10.0%

経鼻栄養管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 51.6%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 19.4%、「出来ない」が 6.5%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 50.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」と「出来ない」が、ともに 16.7%、「対応しているが、かなり困難」が 6.7%で続いています。

④胃ろう栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	58.1%	0.0%	22.6%	0.0%	19.4%
令和5年度調査	n=30	70.0%	3.3%	6.7%	13.3%	6.7%

胃ろう栄養管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 58.1%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 22.6%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 70.0%で最も多く、次いで「出来ない」が 13.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 6.7%で続いています。

「実績はないが、対応可能と思われる」について、令和2年(22.6%)から令和5年(6.7%)まで減少しています。

⑤腸ろう栄養管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	41.9%	3.2%	32.3%	3.2%	19.4%
令和5年度調査	n=30	43.3%	3.3%	20.0%	23.3%	10.0%

腸ろう栄養管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 41.9%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 32.3%、「対応しているが、かなり困難」と「出来ない」が、ともに 3.2%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 43.3%で最も多く、次いで「出来ない」が 23.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 20.0%で続いています。

「出来ない」について、令和2年(3.2%)から令和5年(23.3%)まで増加しています。

⑥がん性疼痛管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	54.8%	3.2%	19.4%	6.5%	16.1%
令和5年度調査	n=30	66.7%	6.7%	6.7%	13.3%	6.7%

がん性疼痛管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 54.8%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 19.4%、「出来ない」が 6.5%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 66.7%で最も多く、次いで「出来ない」が 13.3%、「対応しているが、かなり困難」と「実績はないが、対応可能と思われる」が、ともに 6.7%で続いています。

「実績はないが、対応可能と思われる」について、令和2年(19.4%)から令和5年(6.7%)まで減少しています。

⑦麻薬処方をしている

	合計	対応している	対応しているが、かなり困難	実績はないが、対応可能と思われる	出来ない	不明・無回答
令和2年度調査	n=31	38.7%	6.5%	29.0%	9.7%	16.1%
令和5年度調査	n=30	56.7%	6.7%	10.0%	20.0%	6.7%

麻薬処方をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 38.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 29.0%、「出来ない」が 9.7%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 56.7%で最も多く、次いで「出来ない」が 20.0%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 10.0%で続いています。

⑧褥瘡の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	64.5%	0.0%	12.9%	0.0%	22.6%
令和5年度調査	n=30	66.7%	0.0%	13.3%	10.0%	10.0%

褥瘡の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 64.5%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 66.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 13.3%、「出来ない」が 10.0%で続いています。

⑨人口肛門の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	61.3%	0.0%	19.4%	0.0%	19.4%
令和5年度調査	n=30	73.3%	0.0%	10.0%	10.0%	6.7%

人口肛門の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 61.3%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 19.4%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 73.3%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」と「出来ない」が、ともに 10.0%で続いています。

⑩気管切開部の処置をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	38.7%	3.2%	22.6%	16.1%	19.4%
令和5年度調査	n=30	36.7%	6.7%	20.0%	26.7%	10.0%

気管切開部の処置をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 38.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 22.6%、「出来ない」が 16.1%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 36.7%で最も多く、次いで「出来ない」が 26.7%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 20.0%で続いています。

⑪在宅酸素療法をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	71.0%	0.0%	12.9%	0.0%	16.1%
令和5年度調査	n=30	80.0%	0.0%	3.3%	10.0%	6.7%

在宅酸素療法をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 71.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 12.9%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 80.0%で最も多く、次いで「出来ない」が 10.0%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 3.3%で続いています。

⑫CPAP・鼻マスクをしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	45.2%	9.7%	19.4%	6.5%	19.4%
令和5年度調査	n=30	50.0%	3.3%	23.3%	13.3%	10.0%

CPAP・鼻マスクをみると、令和2年度調査では、「対応している」が45.2%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が19.4%、「対応しているが、かなり困難」が9.7%が続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が50.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が23.3%、「出来ない」が13.3%が続いています。

⑬人工呼吸管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	19.4%	6.5%	29.0%	22.6%	22.6%
令和5年度調査	n=30	16.7%	6.7%	30.0%	33.3%	13.3%

人工呼吸管理をみると、令和2年度調査では、「実績はないが、対応可能と思われる」が29.0%で最も多く、次いで「出来ない」が22.6%、「対応している」が19.4%が続いています。

令和5年度調査では、「出来ない」が33.3%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が30.0%、「対応している」が16.7%が続いています。

⑭尿道カテーテル管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	67.7%	3.2%	9.7%	0.0%	19.4%
令和5年度調査	n=30	73.3%	3.3%	10.0%	6.7%	6.7%

尿道カテーテル管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が67.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が9.7%、「対応しているが、かなり困難」が3.2%が続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が73.3%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が10.0%、「出来ない」が6.7%が続いています。

⑮導入剤自己注射の管理をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	38.7%	3.2%	32.3%	6.5%	19.4%
令和5年度調査	n=30	40.0%	0.0%	26.7%	23.3%	10.0%

導入剤自己注射の管理をみると、令和2年度調査では、「対応している」が38.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が32.3%、「出来ない」が6.5%が続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が40.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が26.7%、「出来ない」が23.3%が続いています。

⑩人工透析をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	64.5%	0.0%	9.7%	9.7%	16.1%
令和5年度調査	n=30	76.7%	0.0%	3.3%	13.3%	6.7%

人工透析をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 64.5%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」と「出来ない」が、ともに 9.7%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が76.7%で最も多く、次いで「出来ない」が13.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 3.3%で続いています。

⑪吸引（気管切開以外）をしている

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	38.7%	3.2%	32.3%	3.2%	22.6%
令和5年度調査	n=30	50.0%	6.7%	20.0%	16.7%	6.7%

吸引（気管切開以外）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 38.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 32.3%、「対応しているが、かなり困難」と「出来ない」が、ともに 3.2%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 50.0%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 20.0%、「出来ない」が 16.7%で続いています

⑫血糖管理をしている（インシュリン自己注射可）

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	67.7%	3.2%	12.9%	0.0%	16.1%
令和5年度調査	n=30	73.3%	0.0%	3.3%	13.3%	10.0%

血糖管理（インシュリン自己注射可）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 67.7%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 12.9%、「対応しているが、かなり困難」が 3.2%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が73.3%で最も多く、次いで「出来ない」が13.3%、「実績はないが、対応可能と思われる」が 3.3%で続いています。

「出来ない」について、令和2年(0.0%)から令和5年(13.3%)まで増加しています。

⑬血糖管理をしている（インシュリン自己注射不可）

	合計	対応している	対応しているが、 かなり困難	実績はないが、 対応可能と 思われる	出来ない	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	51.6%	6.5%	16.1%	6.5%	19.4%
令和5年度調査	n=30	53.3%	13.3%	6.7%	16.7%	10.0%

血糖管理（インシュリン自己注射不可）をみると、令和2年度調査では、「対応している」が 51.6%で最も多く、次いで「実績はないが、対応可能と思われる」が 16.1%、「対応しているが、かなり困難」と「出来ない」が、ともに 6.5%で続いています。

令和5年度調査では、「対応している」が 53.3%で最も多く、次いで「出来ない」が 16.7%、「対応しているが、かなり困難」が 13.3%で続いています。

9. 利用者の看取りの実施状況

1) 利用者の看取りの実施有無

	合計	行っている	行っていない	現在は行っていないが、 今後は行っていきたい	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=31	51.6%	22.6%	9.7%	16.1%
令和5年度調査	n=30	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%

利用者の看取りを行っているかをみると、令和2年度調査では、「行っている」が 51.6%で最も多く、次いで「行っていない」が 22.6%、「現在は行っていないが、今後は行っていきたい」が 9.7%で続いています。

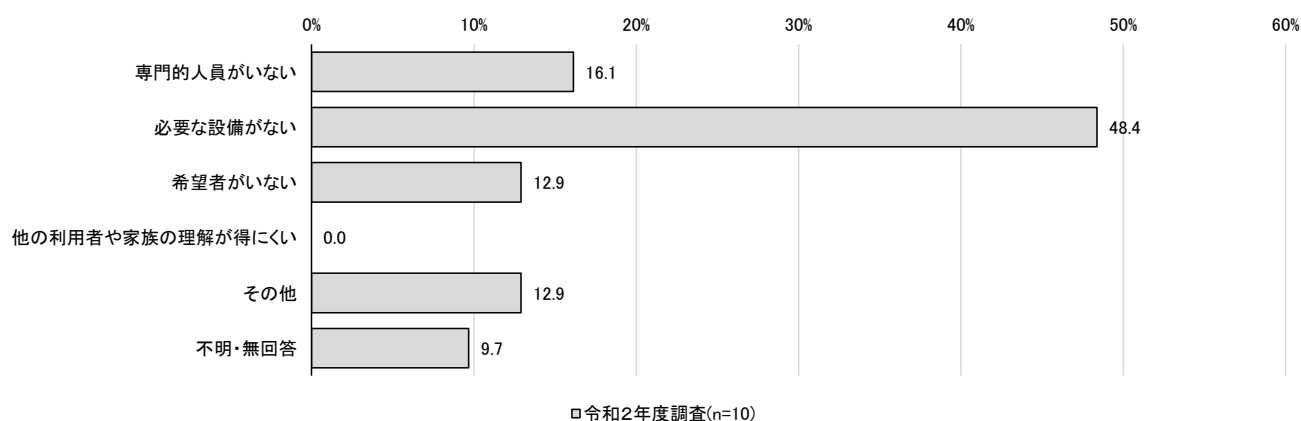
令和5年度調査では、「行っている」が 90.0%で最も多く、次いで「行っていない」が 10.0%で続いています。

2) 看取りを行っていない理由

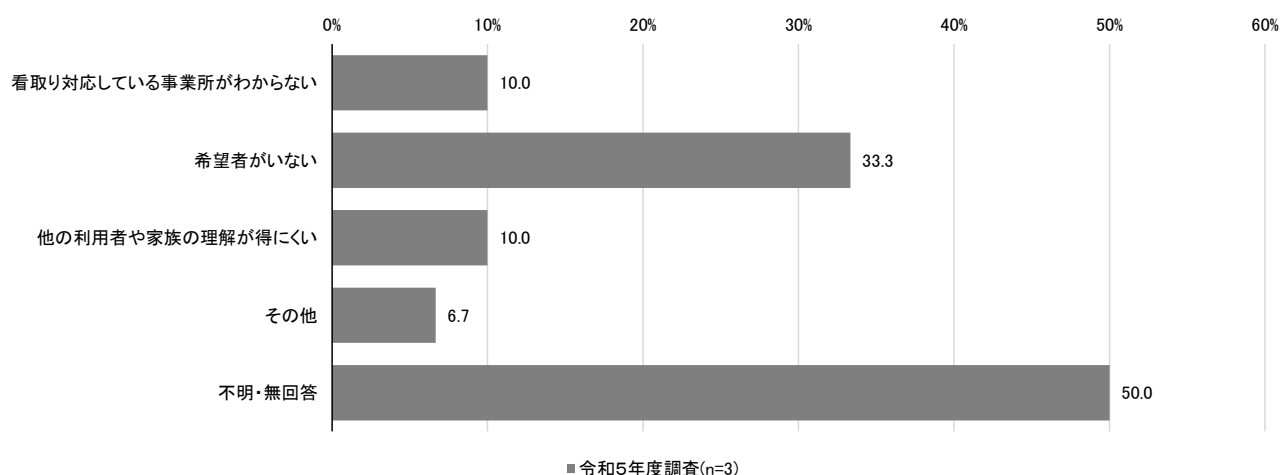
※「看取りを行っていない理由」は「独立性の検定」の処理対象の設問ではない。

ここでは、参考として各年度の単純集計結果を示す。

【令和2年度】（複数回答）



【令和5年度】（複数回答）



注) 本設問は、令和2年度調査と令和5年度調査では、一部選択肢(「専門的人員がいない」「必要な設備がない」「看取りに対応している事業者がわからない」)を入れ替えたため、単純な経年比較は注意を要する。

3) 前年度の利用者の看取りの実績数

	合計	0 人	1～5 人	6～10 人	11～15 人	16 人以上	不明・ 無回答
令和2年度調査	n=16	6.3%	56.3%	12.5%	6.3%	6.3%	12.5%
令和5年度調査	n=27	14.8%	59.3%	0.0%	3.7%	7.4%	14.8%

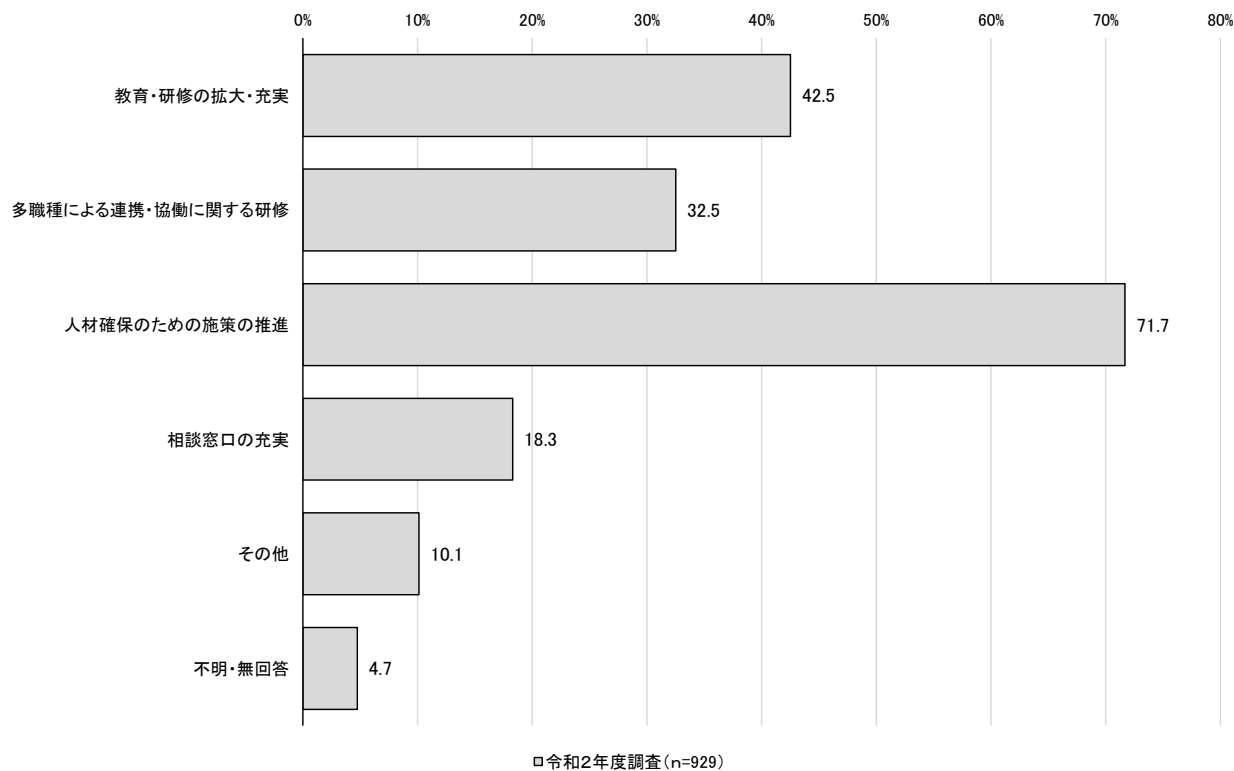
前年度の看取り実績数をみると、令和2年度調査では、「1～5 人」が56.3%で最も多く、次いで「6～10 人」が12.5%、「0 人」と「11～15 人」と「16 人以上」が、ともに 6.3%で続いています。平均は 5.3 人となっています。

令和5年度調査では、「1～5 人」が 59.3%で最も多く、次いで「0 人」が 14.8%、「16 人以上」が 7.4%で続いています。平均は 5.3 人となっています。

V 介護サービス事業所従事者向けアンケート

※「介護サービス事業所従事者向けアンケート」は「独立性の検定」の処理対象の設問がない。
ここでは、重要と思われる単純集計結果を参考までに示す。

【令和2年度】生駒市で働き続けるために市に求めること（主なもの3つまで）



【令和5年度】生駒市で働き続けるために市に求めること（主なもの3つまで）

